

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**警告**

- 門扉は人や車が入り出すためのものです。構造によって開閉する方法が異なりますので、設置の場所・目的に合わせて選択してください。

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- コントローラ用配線を除く配線および埋設管は、現場で手配してください。
- 埋設管には、PF管を使用してください。
- 地中電線路の配管には、将来掘り起こすことがない場所を選んでください。

<施工上のご注意>

**注意**

- 外開きタイプでは開閉時に扉が公道(道路面)等へ飛び出さない位置に設置してください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。
- 2線配線式の場合、詳しい内容については、電気錠操作ユニットの説明書を参照してください。

<ソーラー仕様について>

**注意**

- ソーラーパネルの設置場所が日当たりの良い場所か確認をしてください。晴天時に直射日光が3時間以上当たる場所に設置してください。
- 施工時に扉の上面にあるソーラーパネル部の角当てに注意してください。

<2線配線式について>

⚠ 警告

- 取付説明書「タッチ&ノータッチキー門扉 ー2線化変換アダプターセットー (T007)」を必ず参照してください。



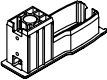








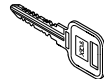



<電気配線工事について>

⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- AC100V用の器具は、D種接地工事を行なってください。
- DC12V仕様の器具には、専用トランスと電源ケーブルが必要です。AC100Vを接続しないでください。
- 落雷時の器具破損、誤作動防止のため、家屋から通電金具間は架空配線をしないで地中配線にしてください。
- 家屋から通電金具までの配線および施錠スイッチへの配線は、100Vおよび200Vの配線と接近して平行または交差しないでください。平行に配線する場合は、500mm以上離してください。また、埋込配線の部分は、100Vおよび200V電源とは別配管にしてください。
- 配管距離が長い場合、また曲がりか所が2ヶ所以上になる場合は、ハンドホールを設けてください。
- ハンドホール内で電線の接続は行なわないでください。
- 配管内に水が侵入しないように、パテなどでふさいでください。
- スリーブの固定は、必ず専用の工具でカシメてください。
- PF管・2コ用スイッチボックス深型カバー付きは現場で別途手配してください。

■梱包明細表

①扉本体

名 称	略 図	員 数				名 称	略 図	員 数			
		配線式		ソーラー式				配線式		ソーラー式	
		H12	H14	H12	H14			H12	H14	H12	H14
扉本体		1	1	1	1	ヒンジキャップ		2	2	2	2
吊元框下キャップ ※1		1	1	1	1	ヒンジカバー		2	2	2	2
合掌框上キャップ ※2		1	1	1	1	①-① M4×10トラスネジ		8	8	8	8
1コ用スイッチボックス 通電金具用		1	1	1	1	①-② φ4×10サラ タッピンネジ1種D=6		2	2	2	2
スリーブ		—	—	2	2	タッチキーリモコン		2	2	2	2
ヒンジ上		1	1	1	1	キー		4	4	4	4
ヒンジ下		1	1	1	1	おでかけサムターン		2	4	2	4
ヒンジ裏板		2	2	2	2	取付説明書	—	1	1	1	1
						取扱説明書	—	1	1	1	1


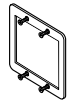
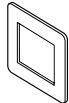

※1 扉本体に仮止めしています。

※2 ソーラー仕様は、扉本体に仮止めしています。


②戸当り

名 称	略 図	員 数
戸当り		1
②-① φ4×13サラピアスネジ		4

③室内メインコントローラー

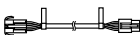
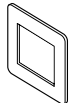
名 称	略 図	員 数
室内メインコントローラー		1
プレート		1
プレート枠		1
③-① M4×25サラ小ネジ		4

④コントローラー用配線

名 称	略 図	員 数
コントローラー用配線		1


⑤増設スイッチ

オプション

名 称	略 図	員 数
増設スイッチ		1
コードB		1
増設配線コード		1
プレート		1
プレート枠		1
⑤-① M4×25サラ小ネジ		4

⑥タッチキー

オプション

名 称	略 図	員 数
タッチキーリモコン		1


⑦スイッチボックスセット

オプション

名 称	略 図	員 数
1コ用スイッチボックス 通電金具用		1
1コ用スイッチボックス 防滴プレート用		1
防滴プレート		1
解錠用押ボタンスイッチ		1
スリーブ		4




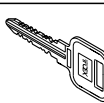
⑧ワイヤレス解錠ユニット

オプション

名 称	略 図	員 数
ワイヤレス解錠受信ユニット		1
ワイヤレス解錠リモコン		1
取付説明書	—	1
取扱説明書	—	1

⑨防犯アラームシリンダー

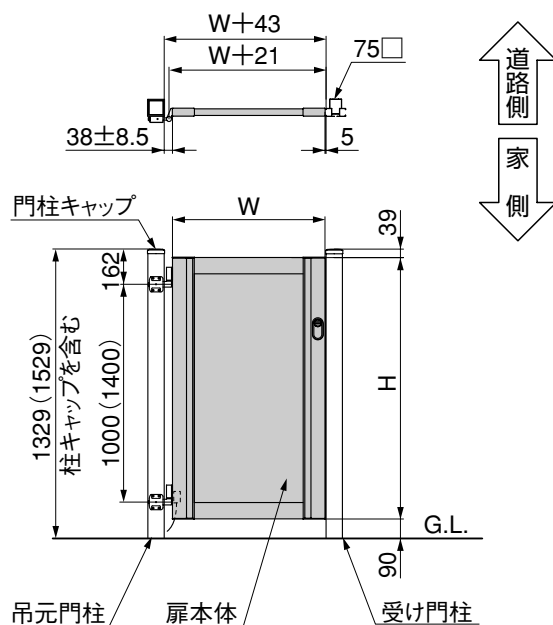
オプション

名 称	略 図	員 数
防犯アラームシリンダー		1
スペーサーR		1
スペーサーL		1
キー		4

1. 基本寸法と各部名称 ※ () 内寸法はH14の場合を示します。

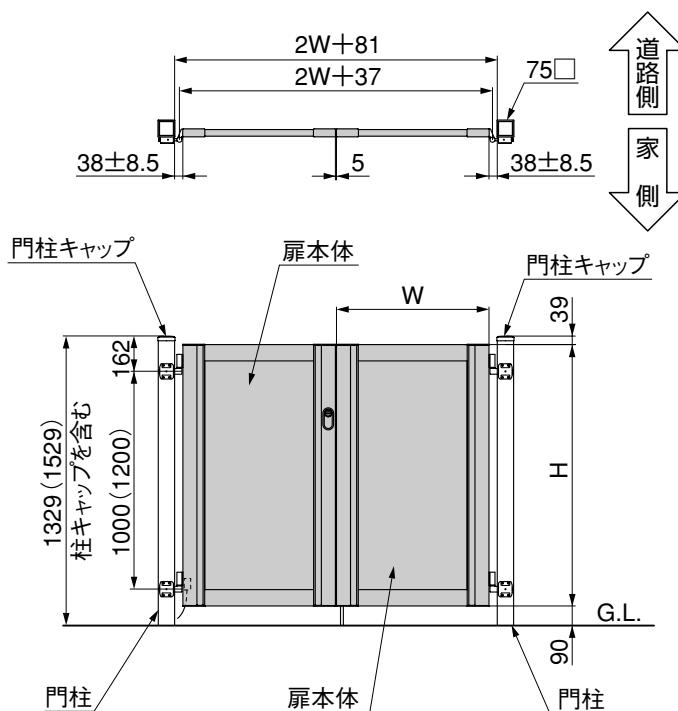
1-1 基本寸法 ※図は、H12の場合を示します。

(1) 片開き



呼称	W	H
07-12	700	1200
08-12	800	1200
07-14	700	1400
08-14	800	1400

(2) 両開き



呼称	W	H
07-12	700	1200
08-12	800	1200
07-14	700	1400
08-14	800	1400

1-2 部品配置

(1) 片開き

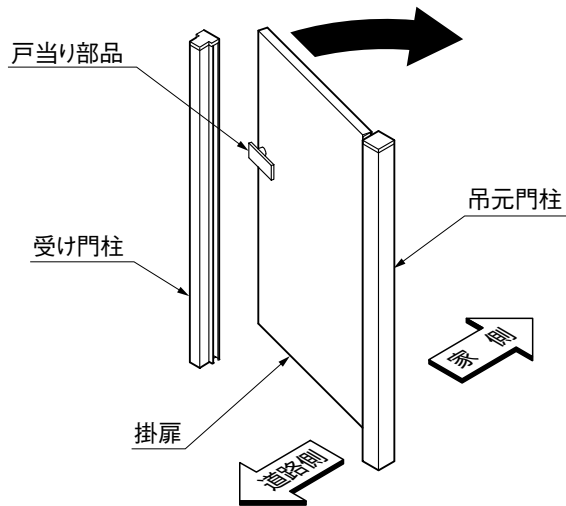


図1-1 右勝手・内開き

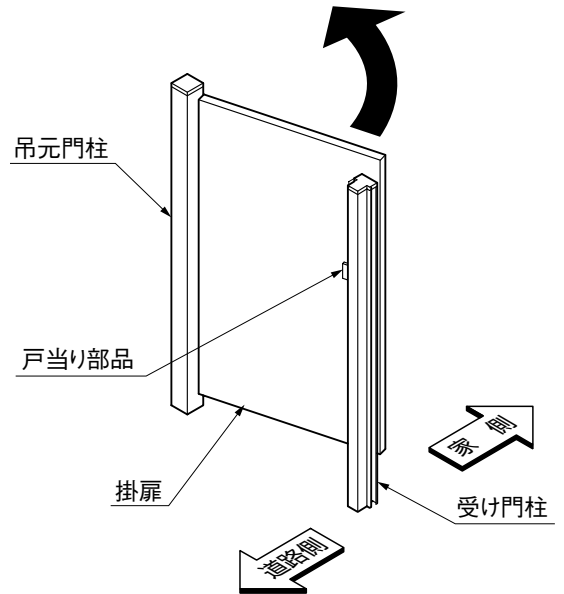


図1-2 左勝手・内開き

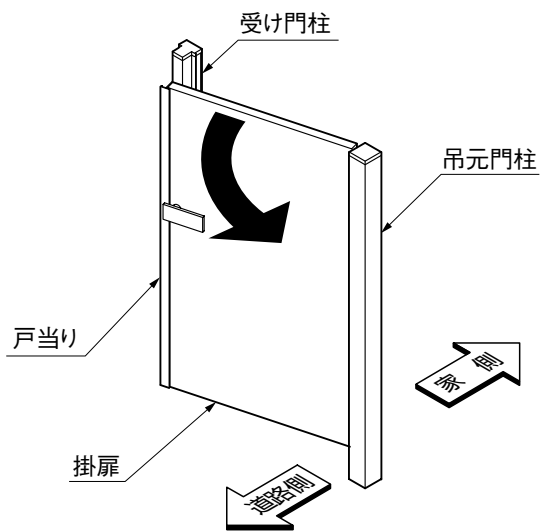


図1-3 右勝手・外開き

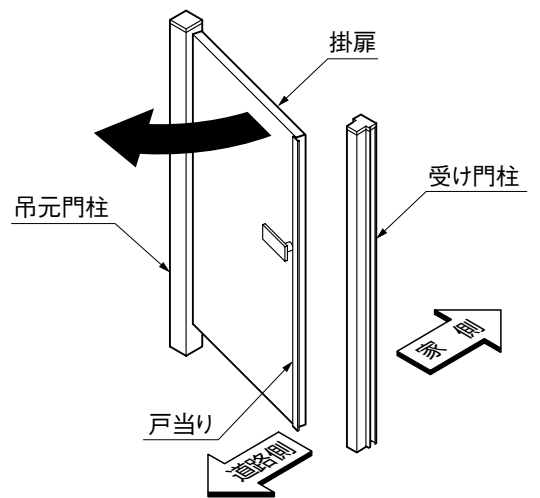


図1-4 左勝手・外開き

1. つづき

(2) 両開き

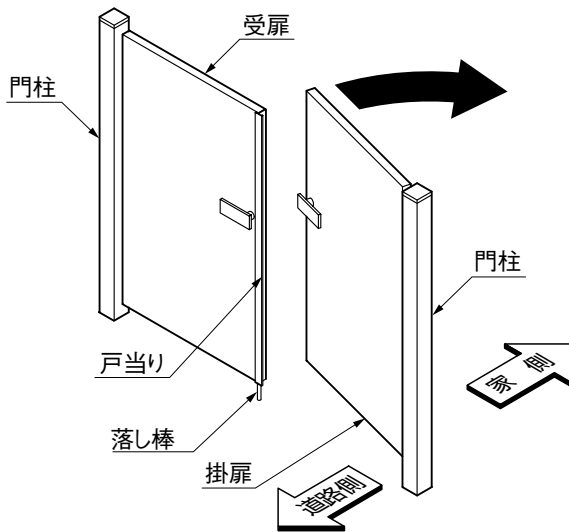


図1-5 右勝手・内開き

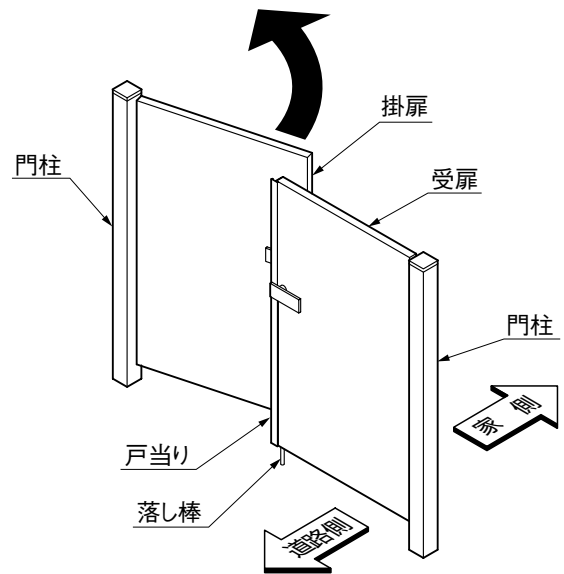


図1-6 左勝手・内開き

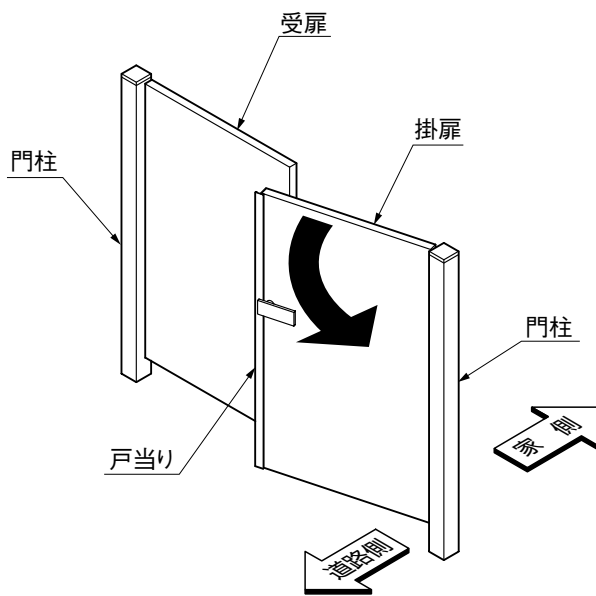


図1-7 右勝手・外開き

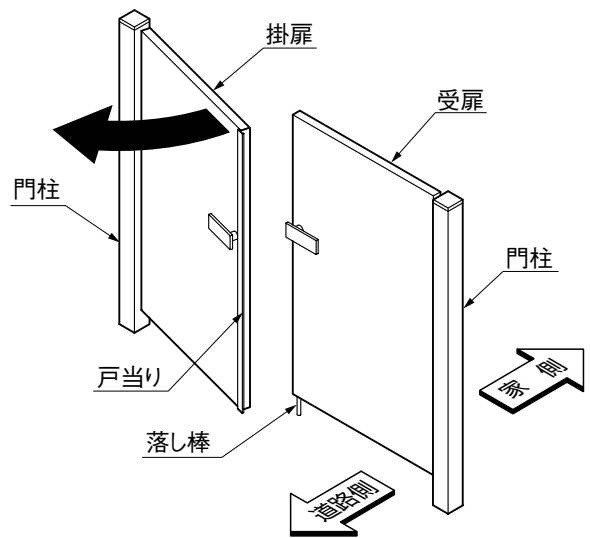
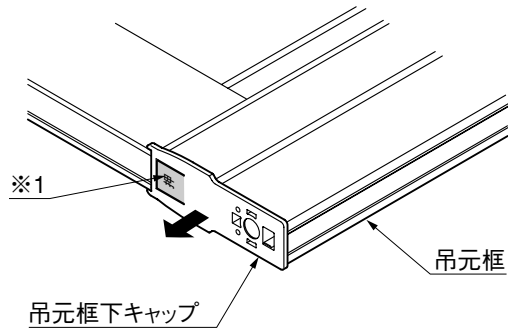


図1-8 左勝手・外開き

2. ヒンジの取付け

表2-1 ヒンジ取付寸法

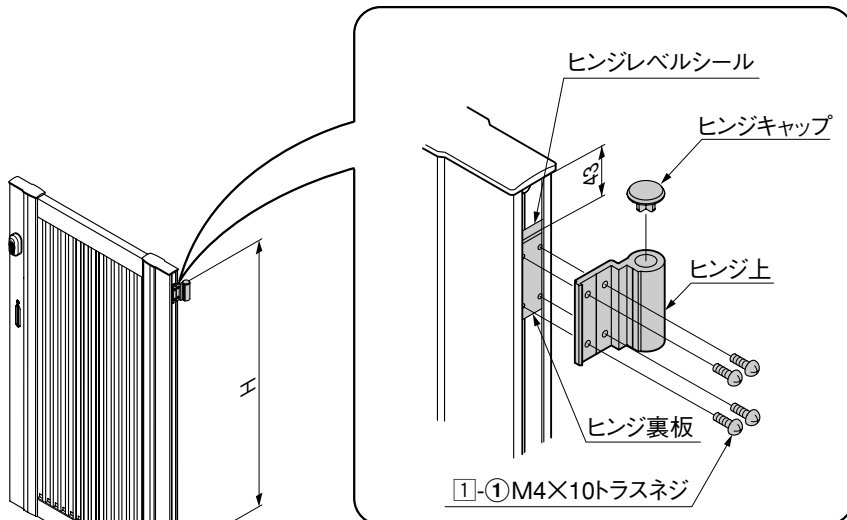
呼称	H
H12	1000
H14	1200



- 1 「押」(※1) を押しながら、吊元框下キャップ全体を引き抜いて、取外してください。

補足

- 吊元框下キャップは、仮固定状態で梱包しています。

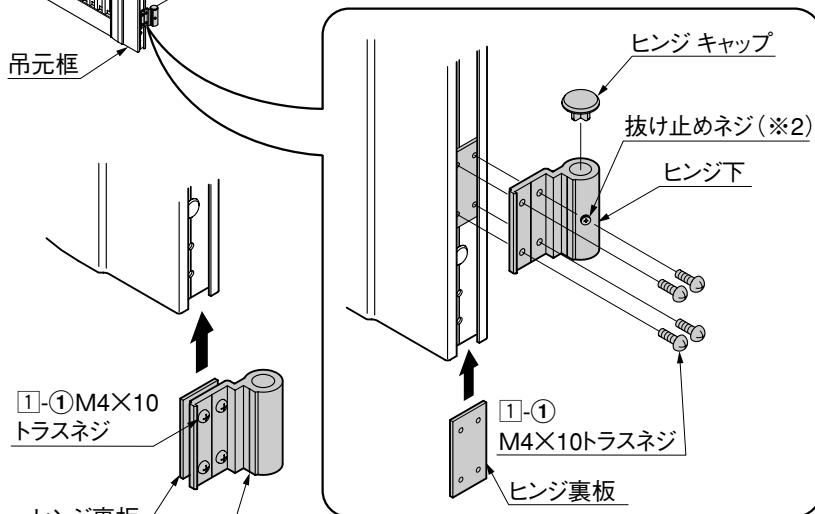


- 2 ヒンジ裏板を吊元框下端からスライドして、各ヒンジを図に示す位置に1-1で固定してください。(表2-1参照)

- 3 ヒンジキャップを取付けてください。

ポイント

- ヒンジにはヒンジ上とヒンジ下の区別があります。抜け止めネジがついているヒンジがヒンジ下です。(※2)



補足

- ヒンジに、ヒンジ裏板を仮組みした状態で吊元框にスライドすると作業が容易です。(図2-1参照)
- ヒンジの向きは内開きと外開きで異なります。(図2-2参照)

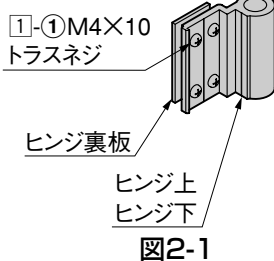


図2-1

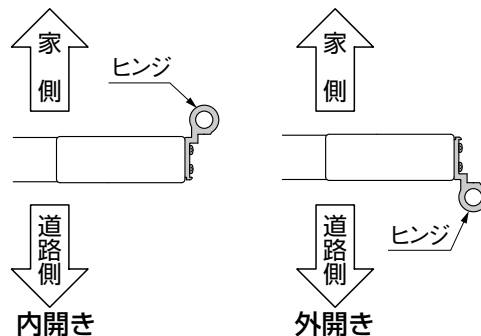
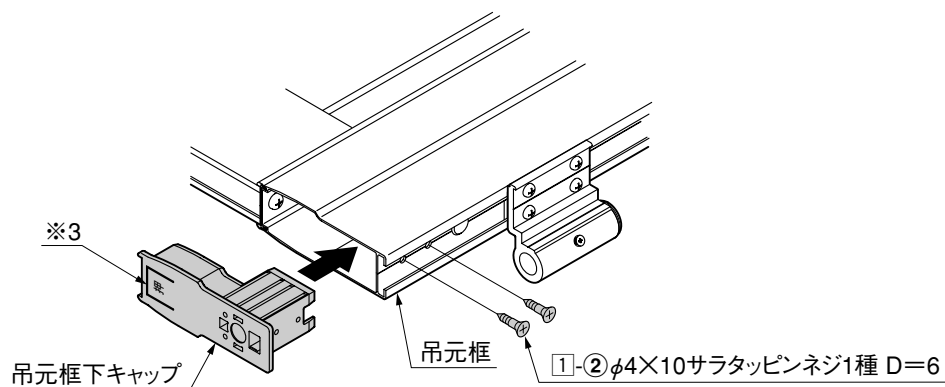


図2-2 ヒンジ取付方向

2. つづき

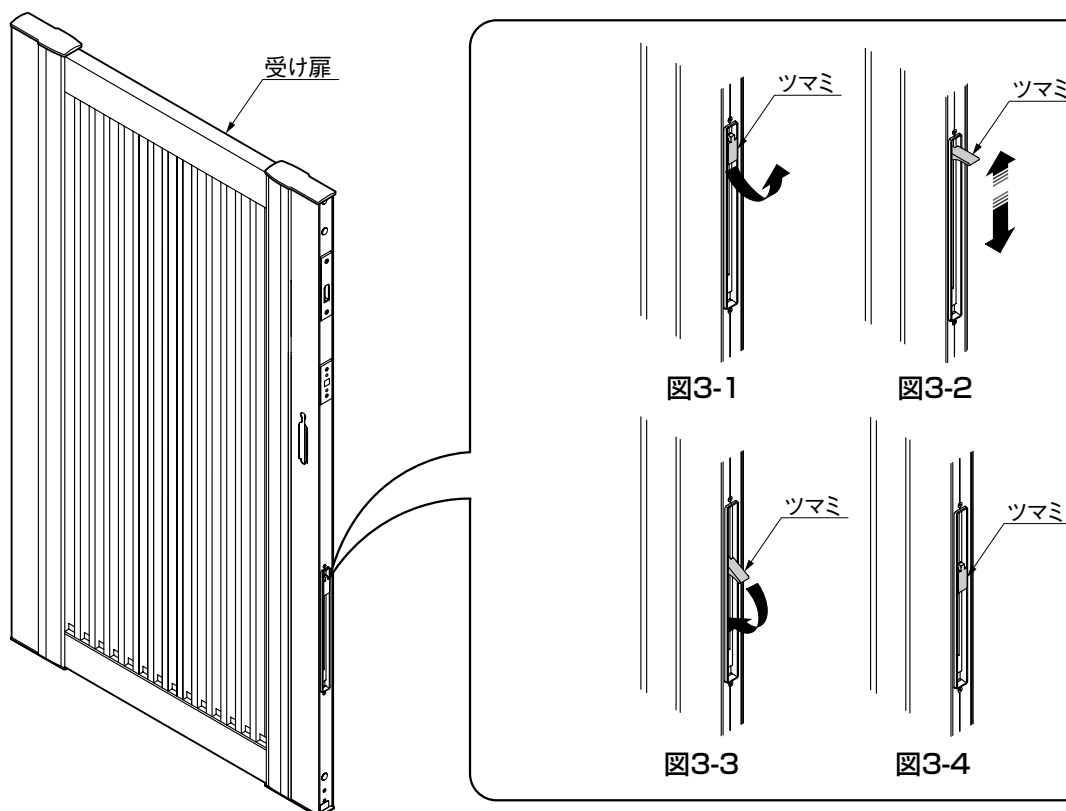


④ 吊元枠下キャップを、「押」(※3)を押しながら吊元枠に挿入して、①-②で取付けてください。

ポイント

- 吊元枠下キャップの取付けには、電動ドライバーを使用しないでください。

3. 落とし棒の操作確認

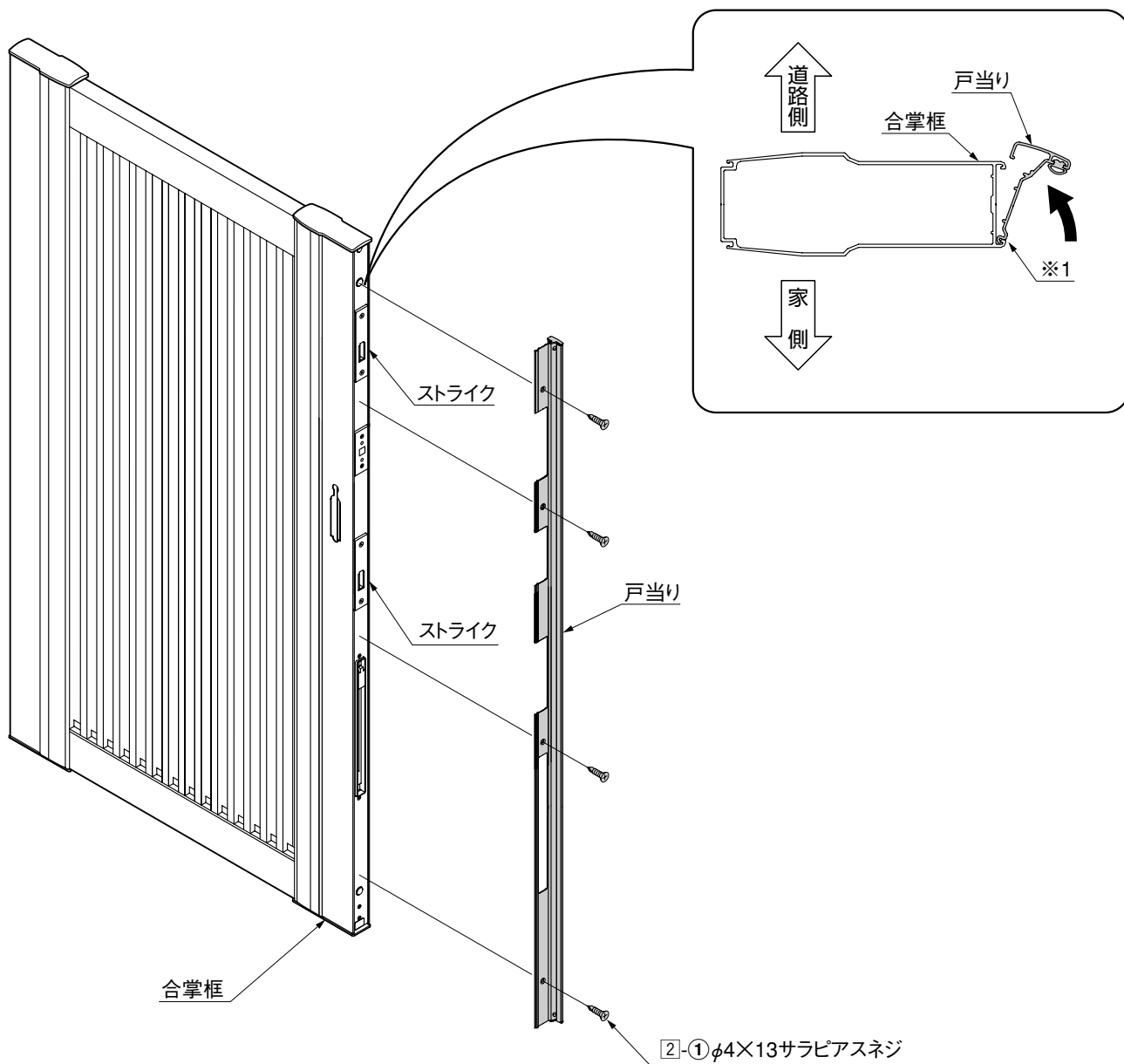


- ① ツマミを引き上げて、ロックを解除してください。(図3-1参照)
- ② ツマミを更に引き起こしてから上下しながら、落とし棒を移動してください。(図3-2参照)
- ③ 落とし棒の位置が決定したら、ツマミを引き下げてロックしてください。(図3-3参照)

ポイント

- 落とし棒操作時以外は、ロック状態にしてください。(図3-4参照)

4. 戸当りの取付け



ポイント

- ストライクは戸当りに合わせて調整してください。

- ① 戸当りを合掌框に引っ掛けて (※1)、②-① で取付けてください。

補足

- 合掌框には戸当り取付け用の孔加工はありません。
- 戸当りを取付ける扉は、「1.基本寸法と各部名称」を参照してください。
- 片開き・内開きの場合は、空錠に同梱の取付説明書を参照してください。

5. 門扉の吊込み

5-1 門扉の取付け

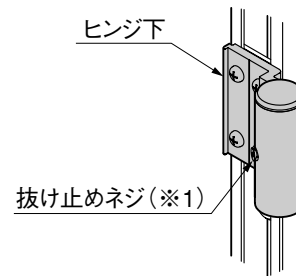
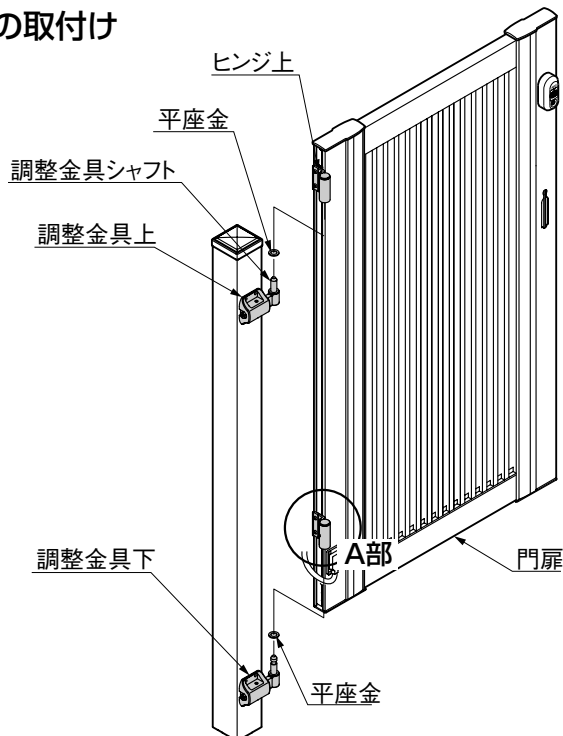


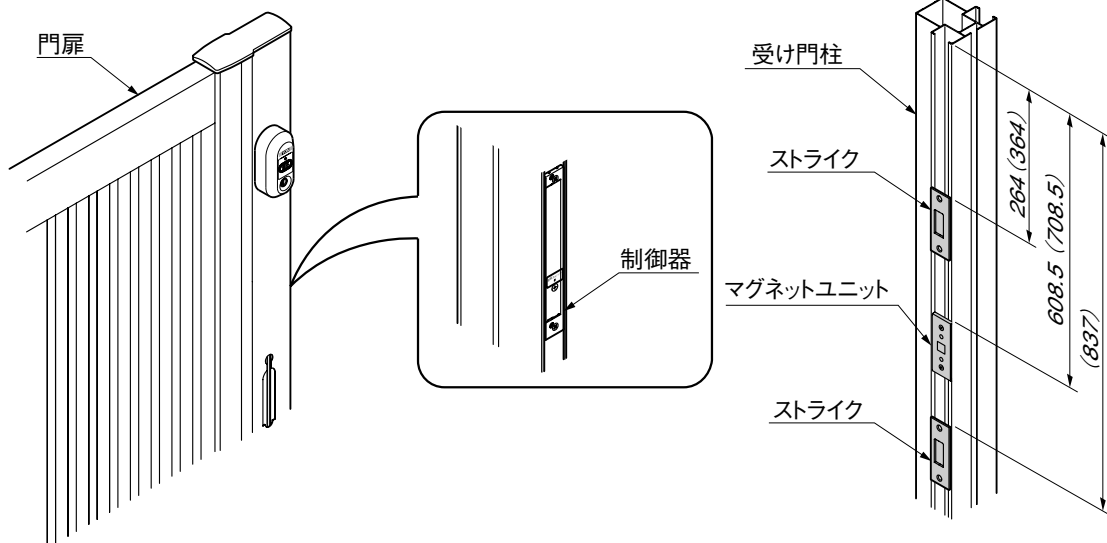
図5-1 A部詳細図

- ① ヒンジ下の「抜け止めネジ(※1)」をゆるめてください。(図5-1参照)
- ② 門柱に同梱の平座金を、調整金具シャフトに取付けてください。
- ③ 調整金具シャフトにヒンジ上、ヒンジ下を差込んで門扉を吊込んでください。
- ④ ヒンジ下の「抜け止めネジ(※1)」を締込んでください。
- ⑤ 空錠の取付けを、空錠に付属の取付説明書にしたがって行ってください。

5-2 ストライク・マグネットユニットの取付け

※片開きの場合の作業です。

※()内寸法はH14を示します。

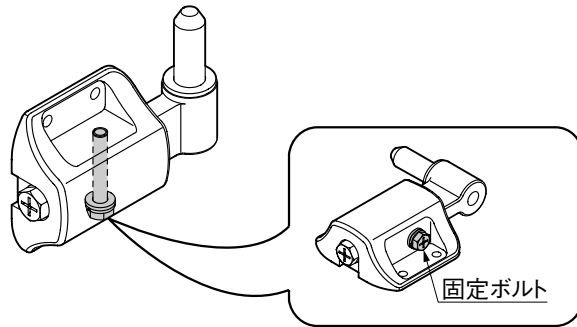


- ① 図を参照して、仮止めしてあるストライク・マグネットユニットを固定してください。

ポイント

- ストライクは、門扉の錠と合うように調整してください。
- マグネットユニットと、制御器の中心が合うように調整してください。
位置がずれると正常に作動しない場合があります。

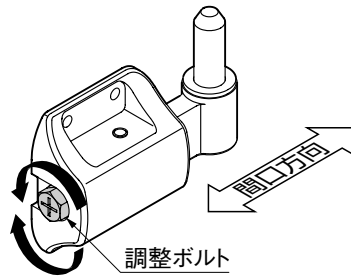
6. 調整金具の調整方法 ※固定ボルトは必ず呼び10のスパナを使用してください。



- ① 「固定ボルト」を呼び10のスパナでゆるめてください。

ポイント

- 「固定ボルト」を締めただまま間口寸法を調整すると「固定ボルト」が破損します。



- ② 「調整ボルト」をまわして、図6-1、図6-2のようにチリ寸法を 5 ± 1 mmに調整してください。

ポイント

- 上下のチリ寸法およびねじれがないように調整してください。

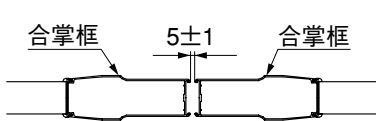


図6-1

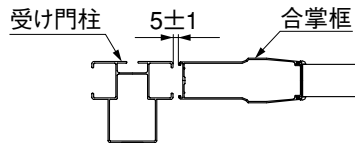
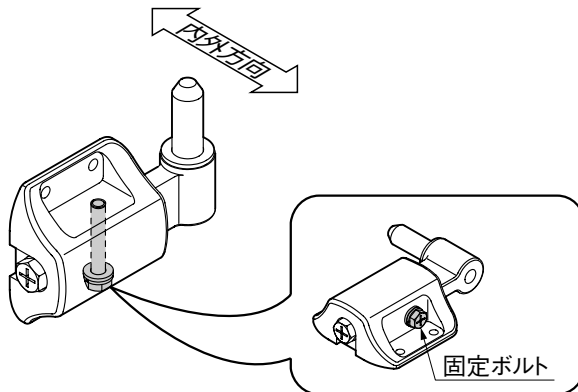


図6-2



- ③ 内外寸法を決めたあと、「固定ボルト」の固定は呼び10のスパナで締付けてください。

補足

- 調整範囲は表6-1を参照してください。

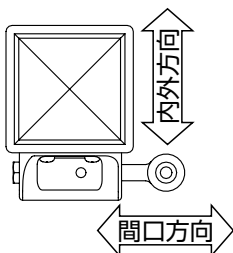
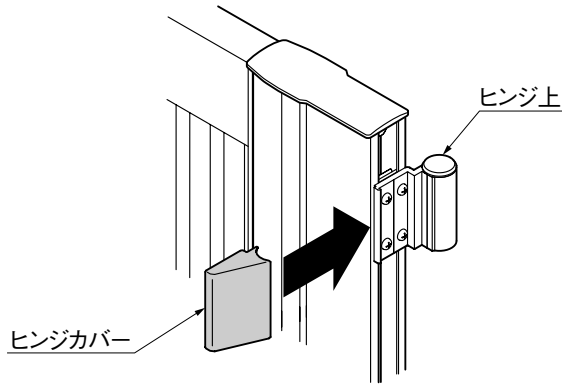


表6-1 調整範囲

内外方向	± 4.5
間口方向	± 8.5

7. ヒンジカバーの取付け

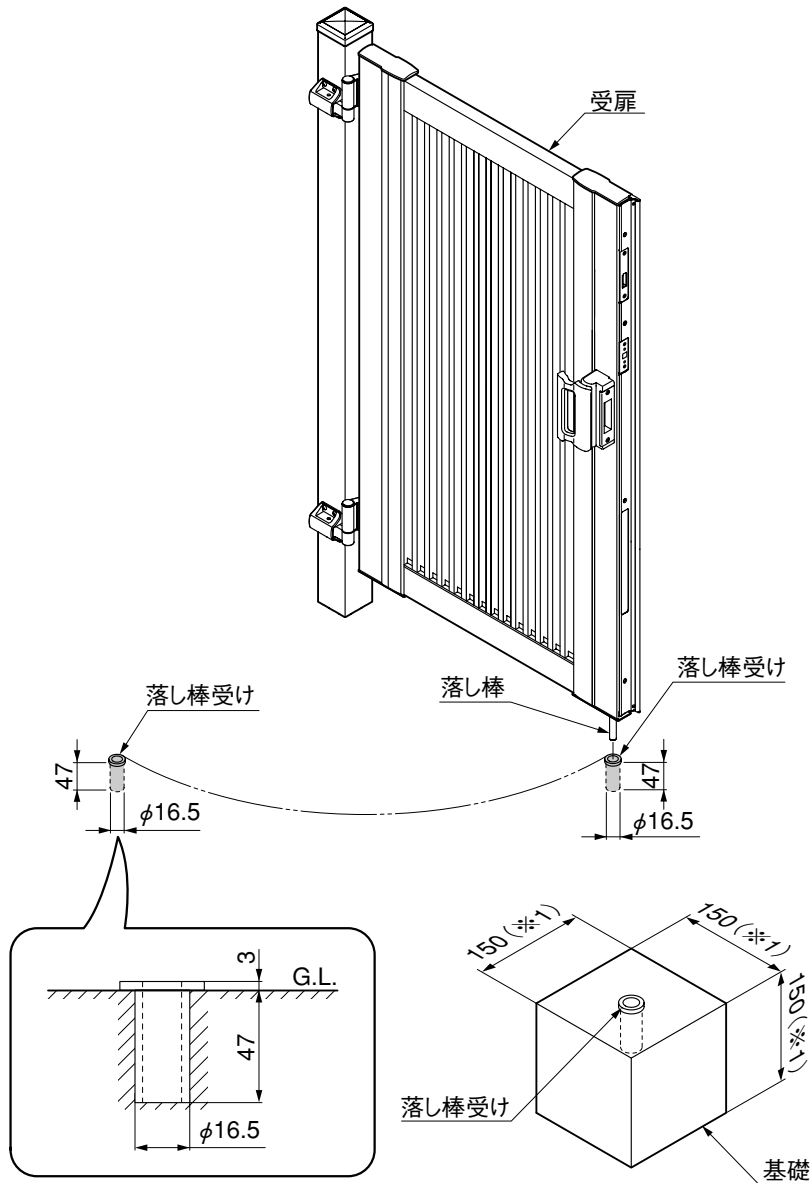


- ① ヒンジ上とヒンジ下に、ヒンジカバーをはめ込んでください。

補足

- ヒンジカバーを挿入するときに「パチン」と音がすることを確認してください。

8. 落とし棒受けの施工



- ① 受扉を開いた状態と閉じた状態で落とし棒を収める位置に、落とし棒受けを施工してください。

ポイント

- 落とし棒受けの埋込位置は、現場合わせて施工してください。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。(※1)

図8-1 基礎寸法

9. 配線式の場合の配線

9-1 配線図

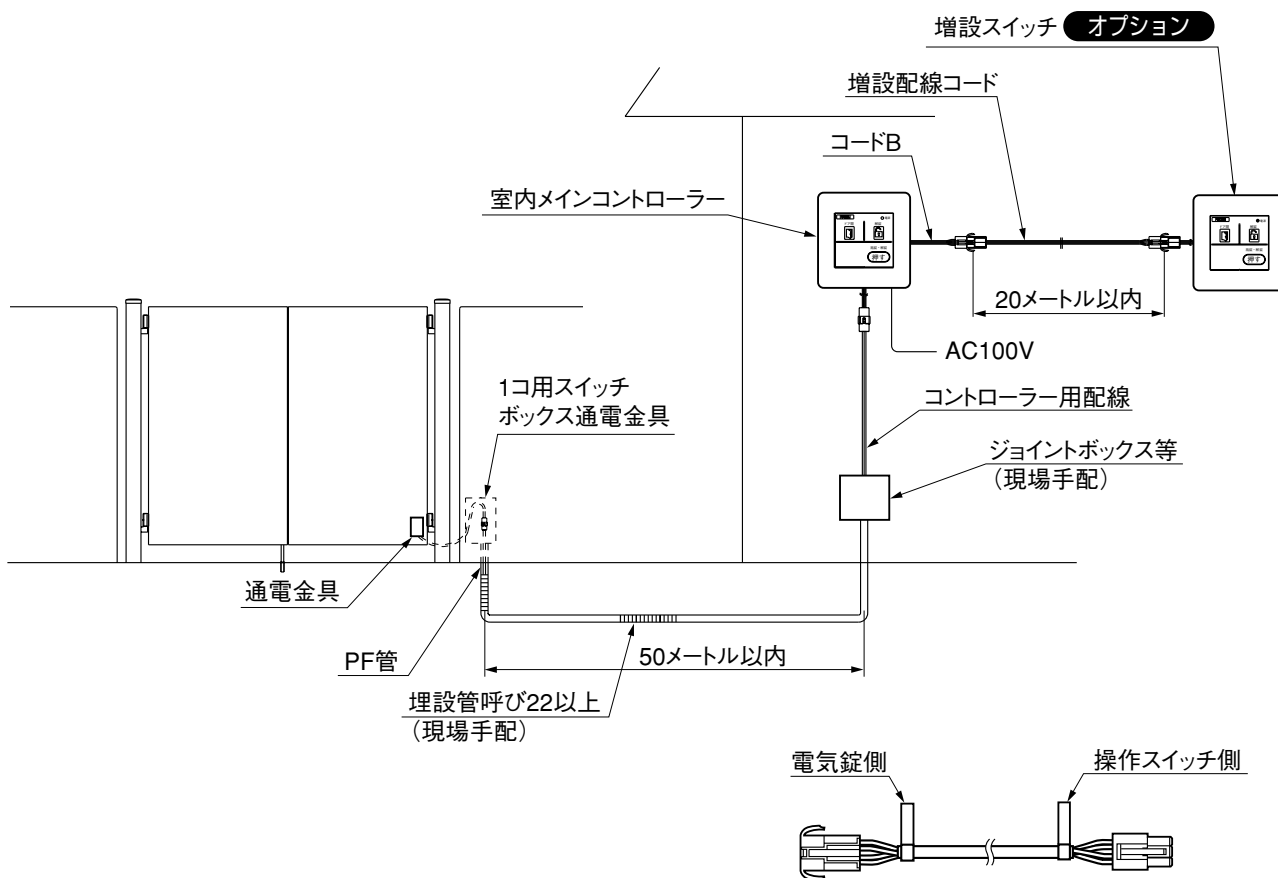


図9-1 コントローラー用配線

ポイント

- コントローラー用配線には、方向がありますので埋設する際、注意してください。(図9-1参照)
 - 埋設管の呼び径は、22以上のものを使用してください。呼び径が小さい場合、コントローラー用配線のコネクター部が通らなくなります。
 - ジョイントボックスは、配線引込み用です。専用のコントローラー用配線は切断しないでください。
 - コントローラー用配線の長さは50メートルです。
 - 配線が余る場合は、屋側または、門扉付近の空いたスペースに束ねて長さを調整してください。
 - 配線を切りつめる場合は、下記内容に注意して実施してください。
 - ・コネクターはそのまま使用し、電線の途中部分(キャプタイヤ部分)を切断してください。
 - ・切断したケーブルは、キャプタイヤの被服を剥き、芯線の色をあわせて接続してください。
 - ・接続はスリーブなどにより確実に行ってください。
 - ・接続部には、必ず防水テーピングを施してください。
- なお、接続方法の詳細は、「内線規程 (JEAC8001-2000) 1335-7~9」に準じて実施してください。接続が不十分な場合、誤作動や漏電による作動不良の原因になります。

補足

- コードB、増設配線コードは増設スイッチに付属しています。
- 増設スイッチは2台まで増設可能です。
- 増設配線コードの長さは20メートルです。

9. つづき

9-2 通電金具の配線

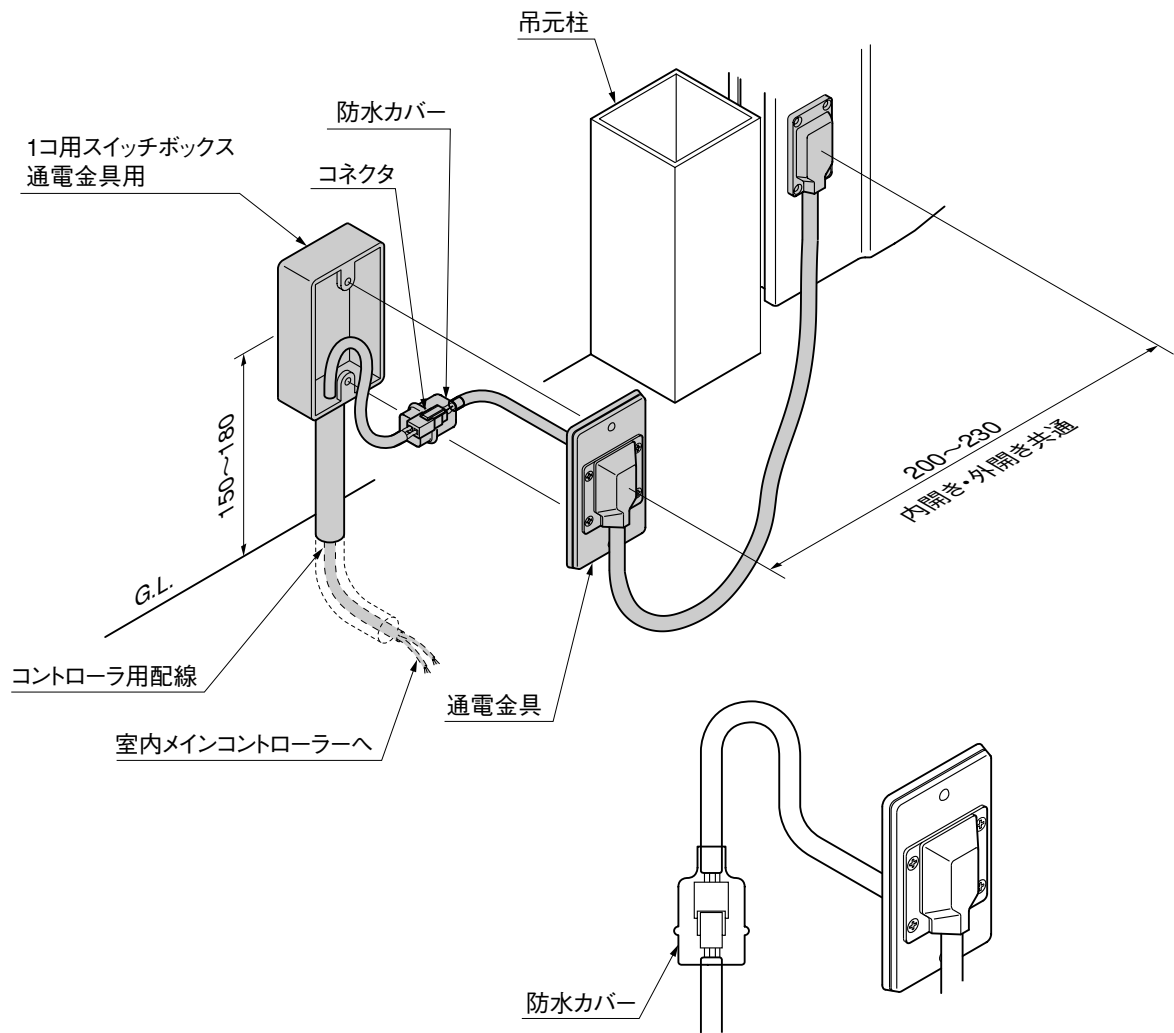


図9-2

- ① 1コ用スイッチボックス通電金具用を図の寸法を参照して取付けてください。
- ② 通電金具のコネクタとコントローラ用配線のコネクタを接続してください。
- ③ 通電金具を1コ用スイッチボックス通電金具用に取付けてください。

ポイント

- 通電金具側のコネクタに取付いている防水カバーが必ず上側になるようにスイッチボックス内に納めてください。(図9-2参照)

9-3 室内メインコントローラーの取付けと配線

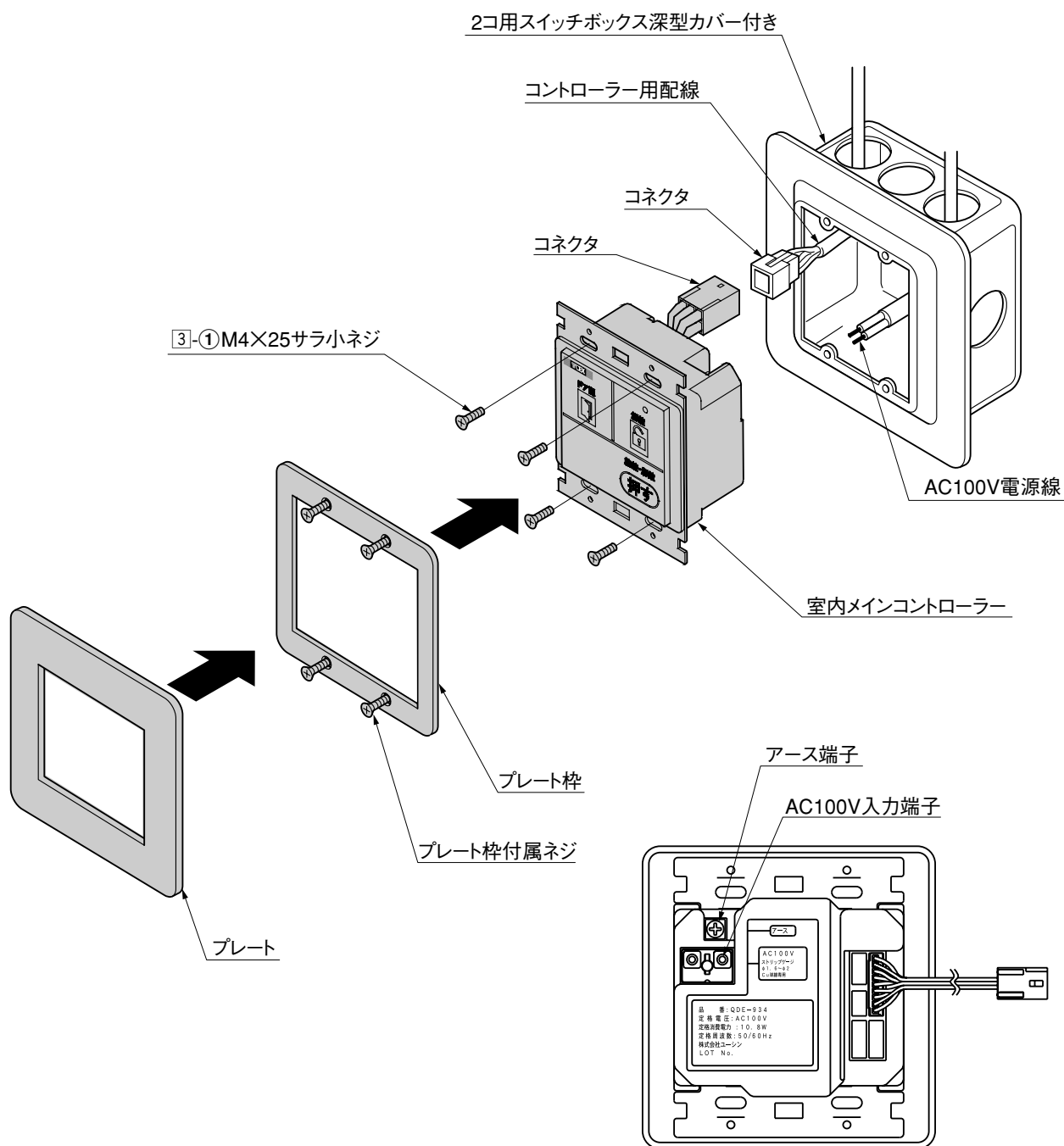
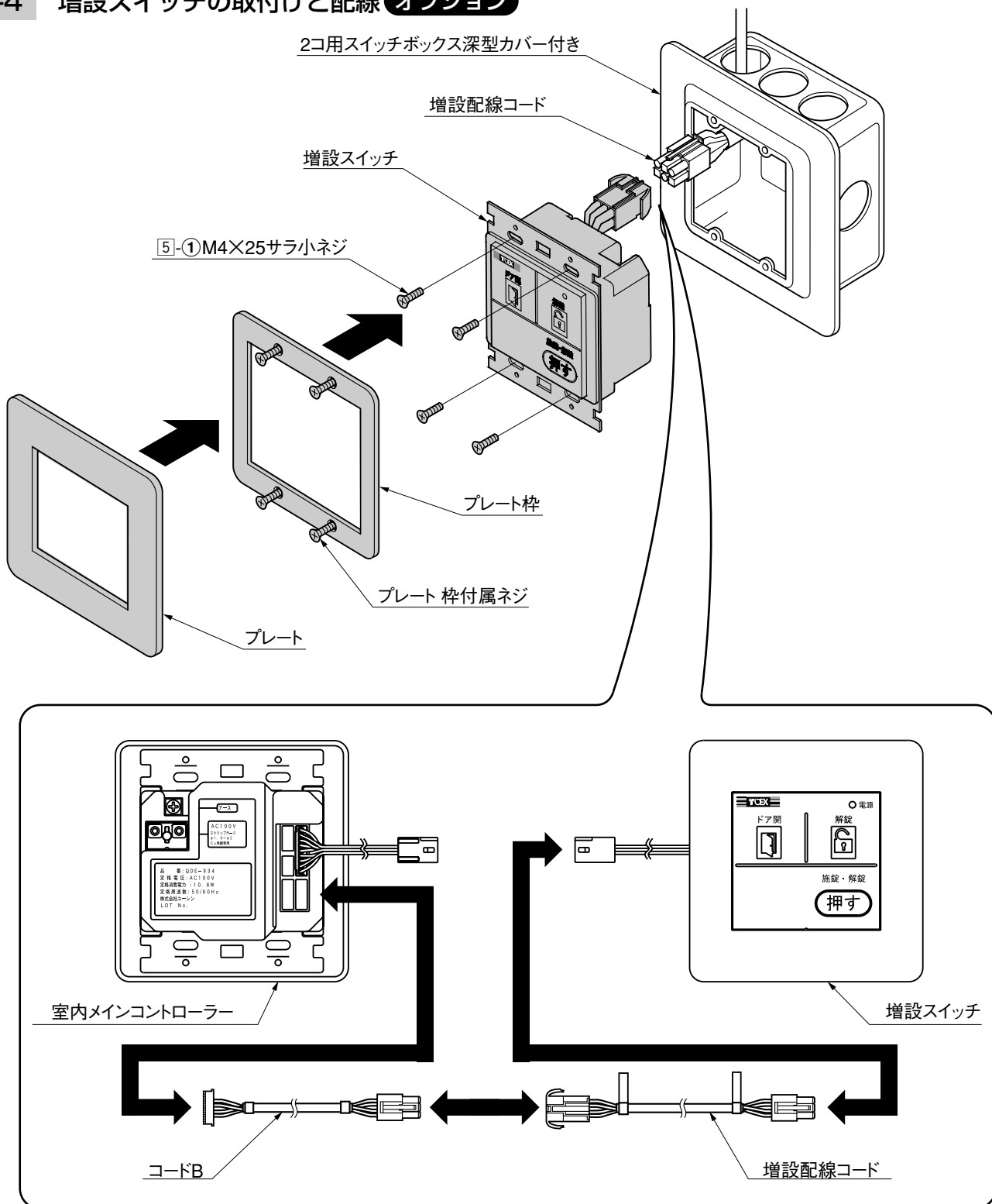


図9-3 室内メインコントローラー裏面

- ① AC100V電源線を室内メインコントローラーの入力端子に接続してください。(図9-3参照)
- ② コントローラー用配線のコネクタと室内メインコントローラーのコネクタを接続してください。
- ③ 室内メインコントローラーを3-①で、2コ用スイッチボックス深型カバー付きに取付けてください。
- ④ プレート枠を室内メインコントローラーへ「プレート枠付属ネジ」で取付けてください。
- ⑤ プレートをプレート枠にはめ込んでください。

9. つづき

9-4 増設スイッチの取付けと配線 **オプション**

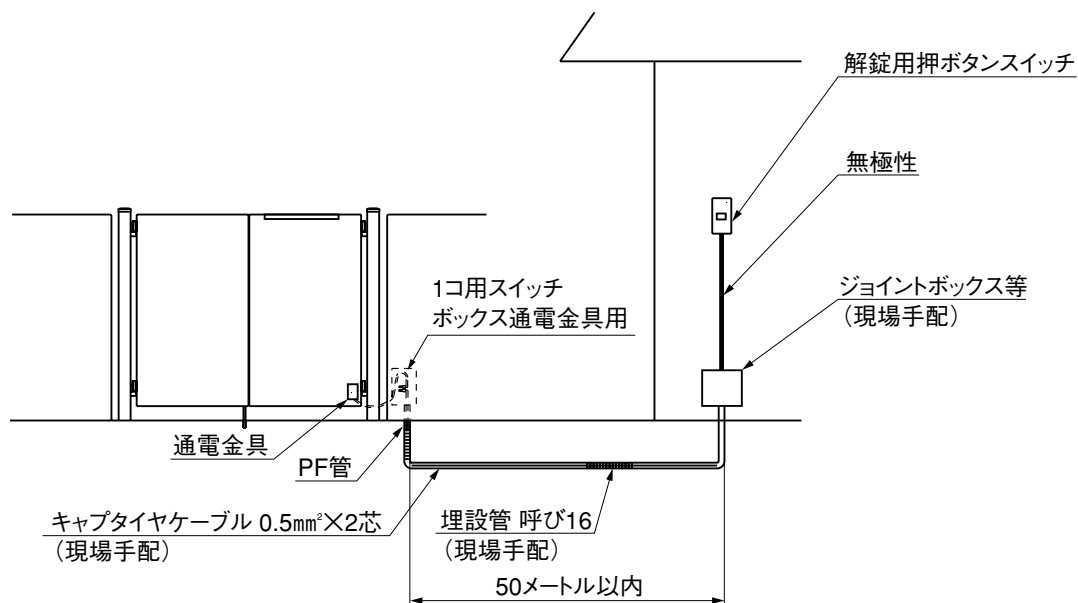


- ① 図のように増設スイッチと室内メインコントローラーの間に、増設配線用コード、コードBを接続してください。
- ② 増設スイッチを5-①で2コ用スイッチボックス深型カバー付きに取付けてください。
- ③ プレート枠を増設スイッチへ「プレート枠付属ネジ」で取付けてください。
- ④ プレートをプレート枠にはめ込んでください。

10. ソーラー式の場合の配線

10-1 解錠用押ボタンスイッチを使用する場合の配線図

オプション

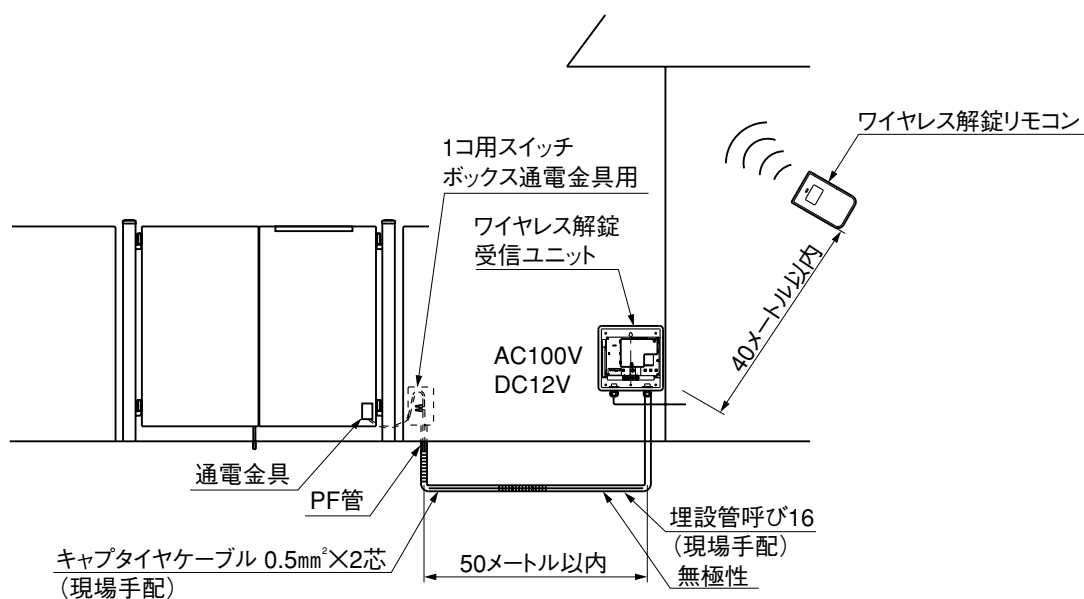


補足

- 解錠用押ボタンスイッチは、いたづらを防止するため、室内または門内（外部から手の届かない場所）の位置に設置してください。
- 解錠用押ボタンスイッチから門扉間は50メートル以内にしてください。

10-2 ワイヤレス解錠ユニットを使用する場合の配線図

オプション



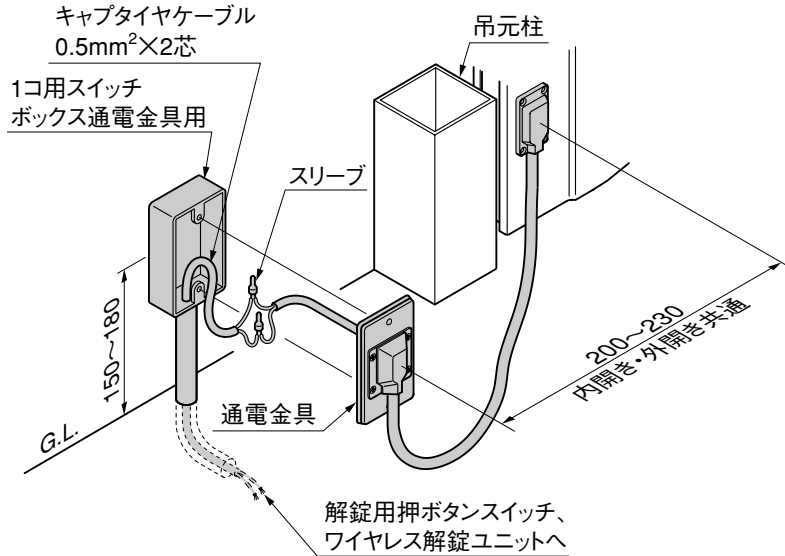
補足

- DC12V電源を使用する場合は別途トランス電源ユニット35Wまたは60Wを用意してください。
- ワイヤレス解錠リモコンは最大30個の使用が可能です。
- ワイヤレス解錠受信ユニットから門扉間は50メートル以内にしてください。

10. つづき

10-3 通電金具の配線 オプション

(1) 解錠用押ボタンスイッチ・ワイヤレス解錠ユニットを使用する場合

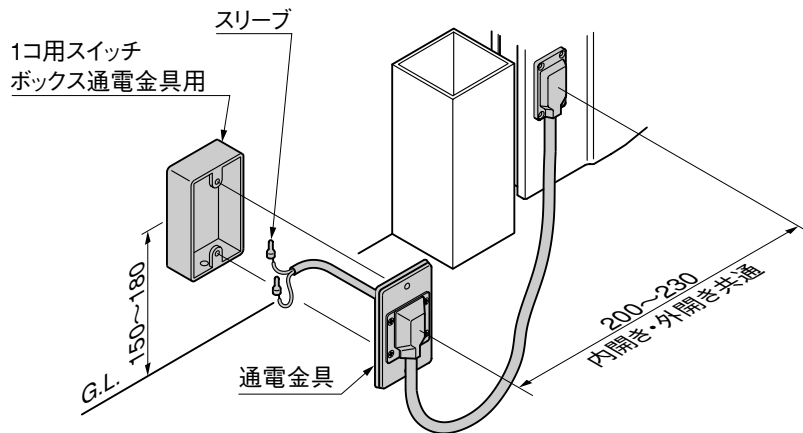


- ① 1コ用スイッチボックス通電金具用を図の寸法を参照して取付けてください。
- ② 通電金具の配線と解錠用押ボタンスイッチまたはワイヤレス解錠ユニットからの配線をスリーブで圧着してください。
- ③ 通電金具を1コ用スイッチボックス通電金具用に取付けてください。

ポイント

- スリーブの圧着は確実にいき、必ず防水テーピングを施してください。防水テーピングをしないと作動不良の原因になります。

(2) 解錠用押ボタンスイッチ・ワイヤレス解錠ユニットを使用しない場合

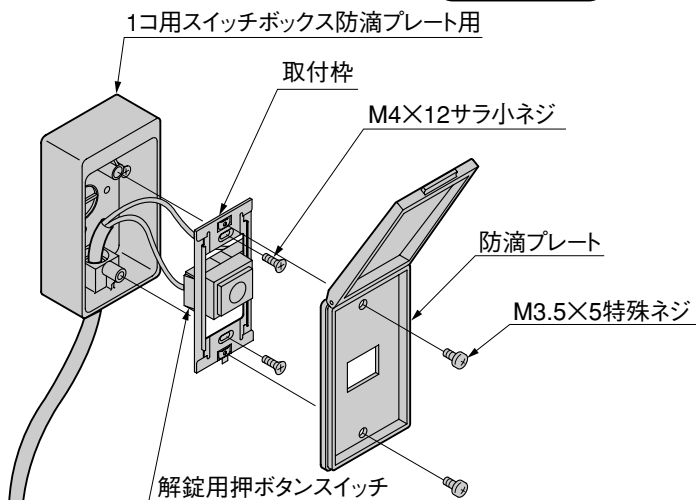


- ① 1コ用スイッチボックス通電金具用を図の寸法を参照して取付けてください。
- ② 誤作動を防ぐ為に必ず配線の端部をそれぞれスリーブにて圧着してください。
- ③ 通電金具を1コ用スイッチボックス通電金具用に取付けてください。

ポイント

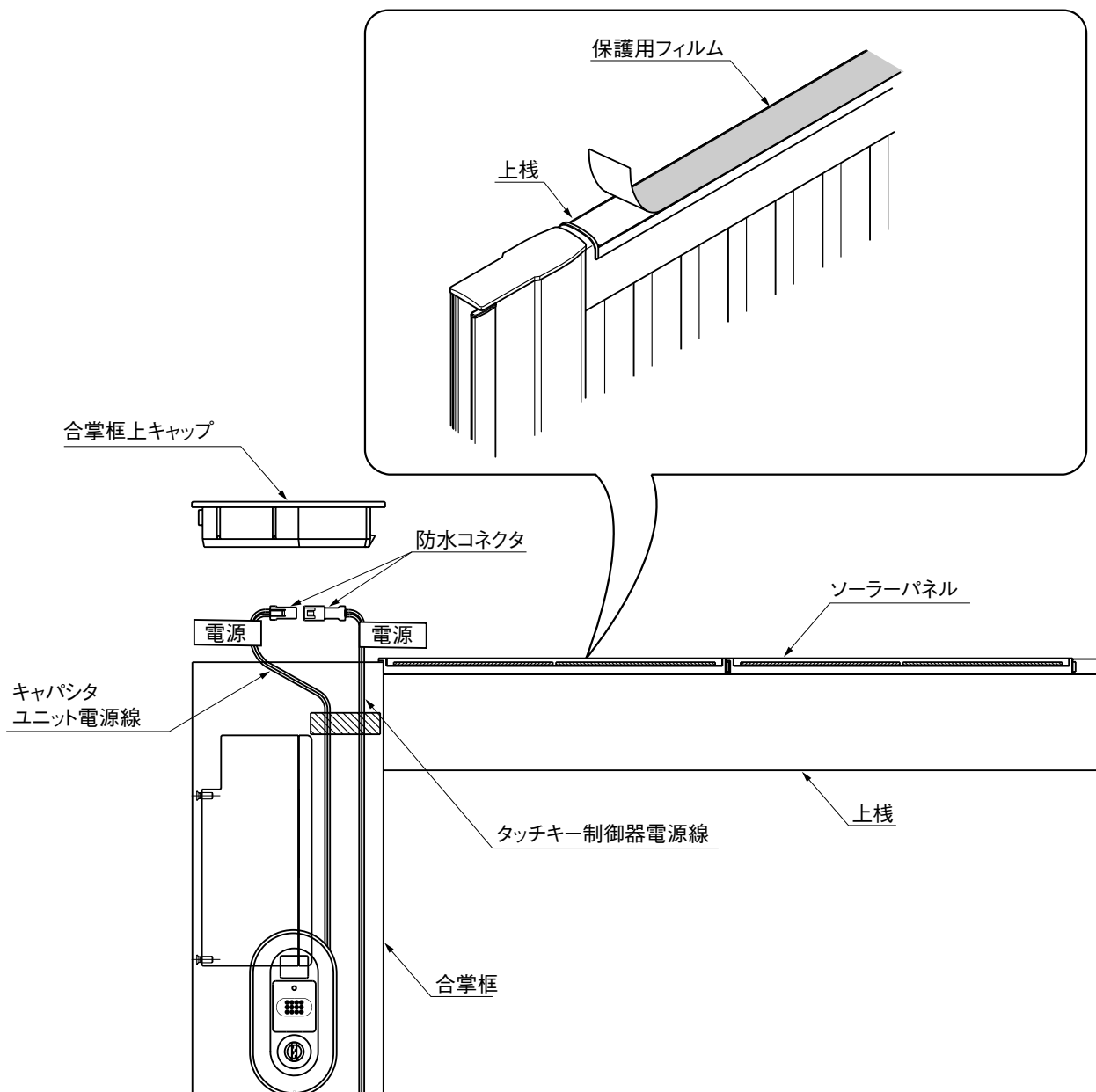
- スリーブの圧着は確実にいき、必ず防水テーピングを施してください。防水テーピングをしないと作動不良の原因になります。

10-4 解錠用押ボタンスイッチの配線 オプション



- ① 通電金具に接続した配線を解錠用押ボタンスイッチに接続してください。
- ② 取付枠を「M4×12サラ小ネジ」で1コ用スイッチボックス防滴プレート用に取り付けてください。
- ③ 防滴プレートを「M3.5×5特殊ネジ」で1コ用スイッチボックス防滴プレート用に取り付けてください。

10-5 合掌框内電源線の接続



- ❶ 合掌框内上部に仮固定しているキャパシタユニット電源線とタッチキー制御器電源線の防水コネクタを接続してください。
- ❷ 配線を合掌框内に納め、合掌框上キャップをはめ込んでください。
- ❸ 保護用フィルムをはがしてください。

🔑 ポイント

- 保護用フィルムをはがさないで使用すると充電不足で作動しなくなります。
- 防水コネクタは確実にはめてください。接続が確実でないと作動不良の原因となります。

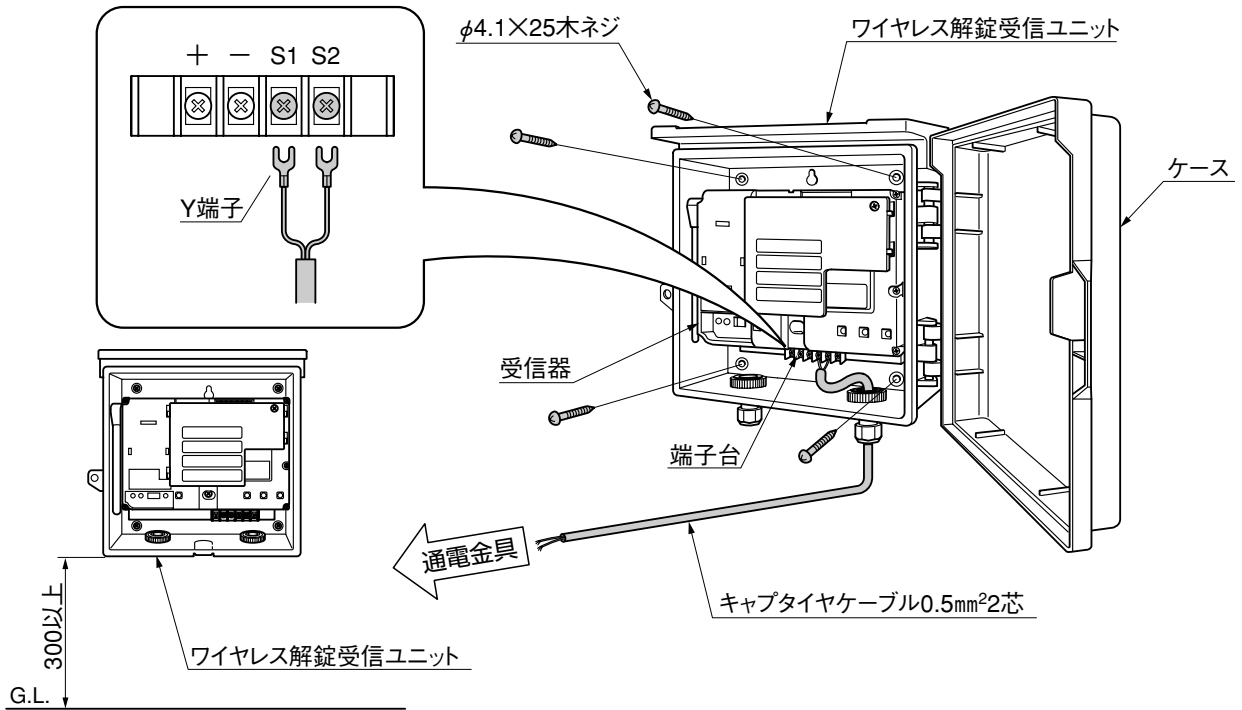
✎ 補足

- 電源線を接続した時点で、電気錠の作動は可能になりますが、充電不足の為に充電不足の警告音が5回鳴ります。電気錠を作動する前には、晴天時に1時間以上充電してください。

10. つづき

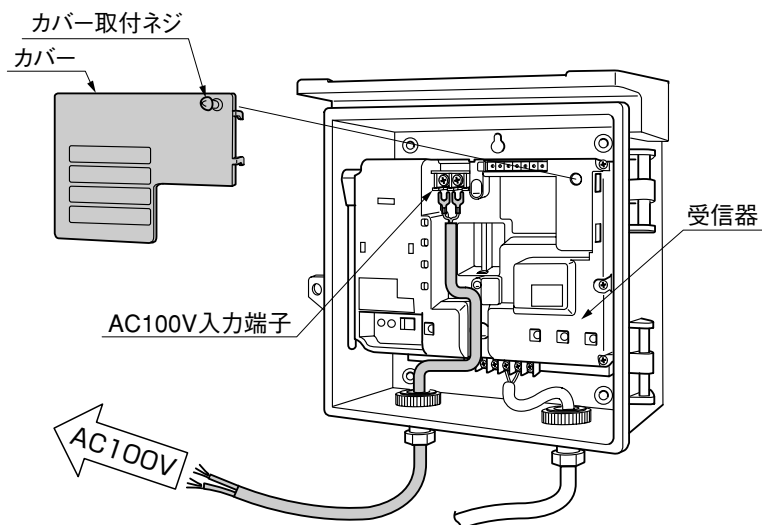
10-6 ワイヤレス解錠ユニットの配線 **オプション**

(1) ワイヤレス解錠受信ユニットの取付けと端子台への接続



- ① G.L.から300mm以上の高さにワイヤレス解錠受信ユニットを「φ4.1×25木ネジ」で取付けてください。
- ② 端子台に通電金具からの配線をS1、S2の端子に接続してください。

(2) ワイヤレス解錠ユニット電源のAC100V入力の接続

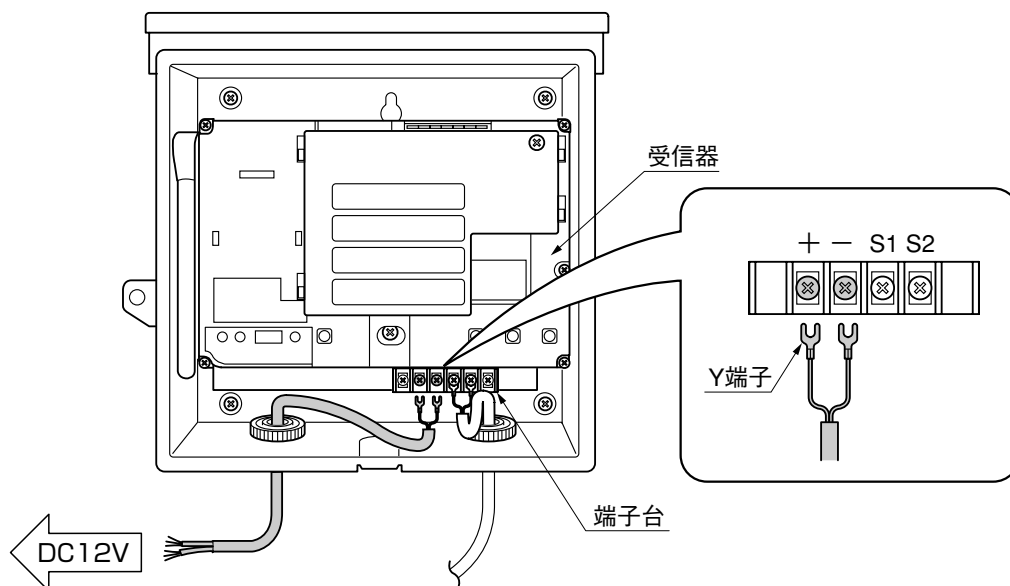


- ① 受信器の「カバー取付ネジ」をゆるめてカバーを取外してください。
- ② 受信器のAC100V入力端子にAC100V電源線を接続してください。

ポイント

- DC12V入力端子にAC100Vは入力しないでください。故障の原因になります。
- ③ 取外したカバーを「カバー取付ネジ」で取付けてください。

(3) ワイヤレス解錠ユニット電源のDC12V入力の接続



- 1 端子台のDC12Vの+-に接続してください。

補足

- DC12V入力の場合、別途トランス電源ユニットが必要になります。
- トランス電源ユニットの設定は「連続ON」で使用してください。
- トランス電源ユニットの取付け、配線は別途トランス電源ユニットの取扱説明書を参照してください。

(4) リモコンの受信器への登録

補足

- ワイヤレス解錠ユニットに付属の取付説明書を参照してください。

11. 2線配線式の場合の配線

11-1 取付けと配線

補足

- 取付説明書「タッチ&ノータッチキー門扉 ー2線化変換アダプターセットー (T007)」を参照してください。

11-2 電気錠操作ユニットの取付けと配線

補足

- 電気錠操作ユニットに付属の施工説明書を参照してください。

12. 防犯アラームシリンダーの取付け **オプション** ※H14の場合の作業です。

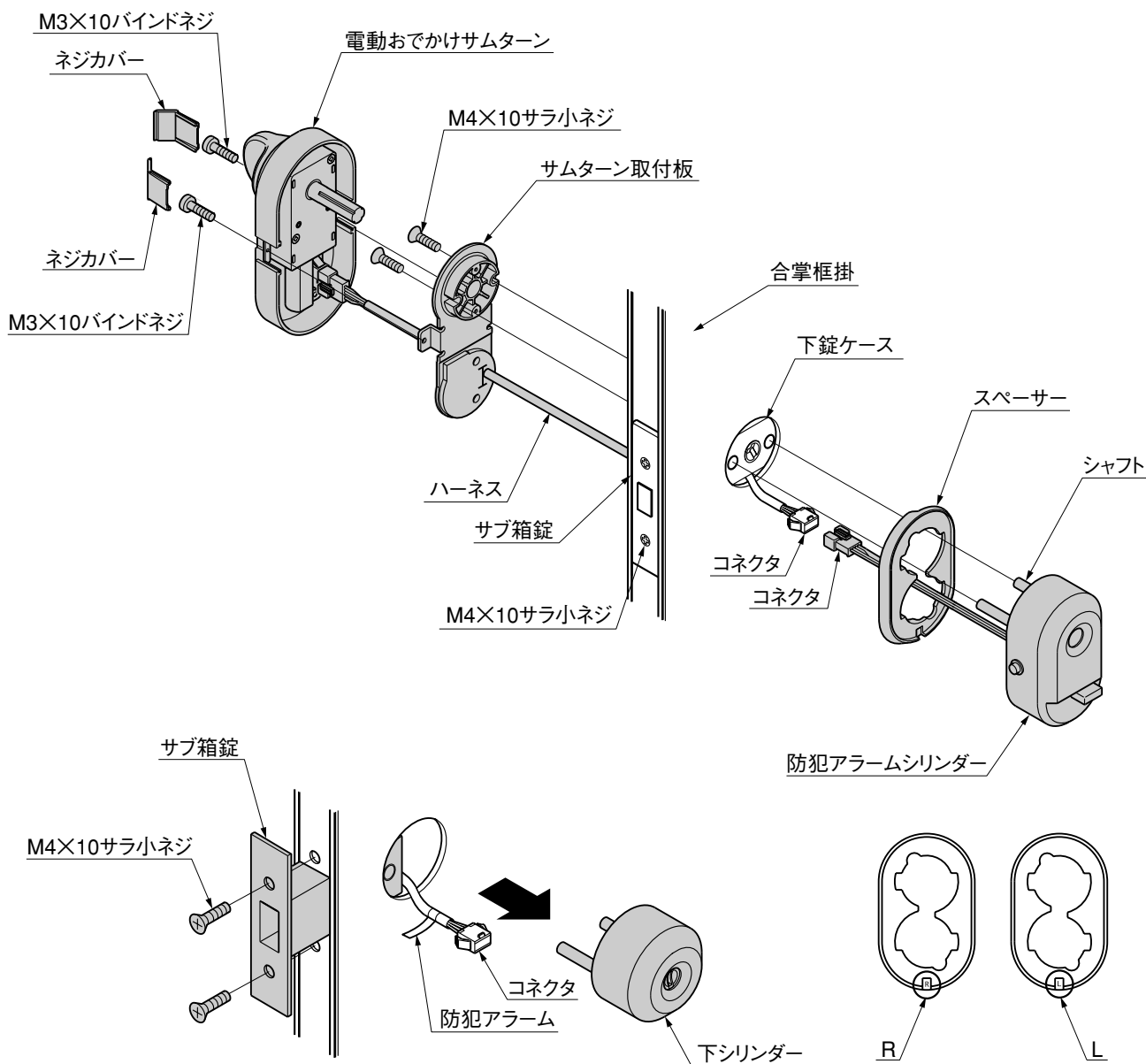


図12-1

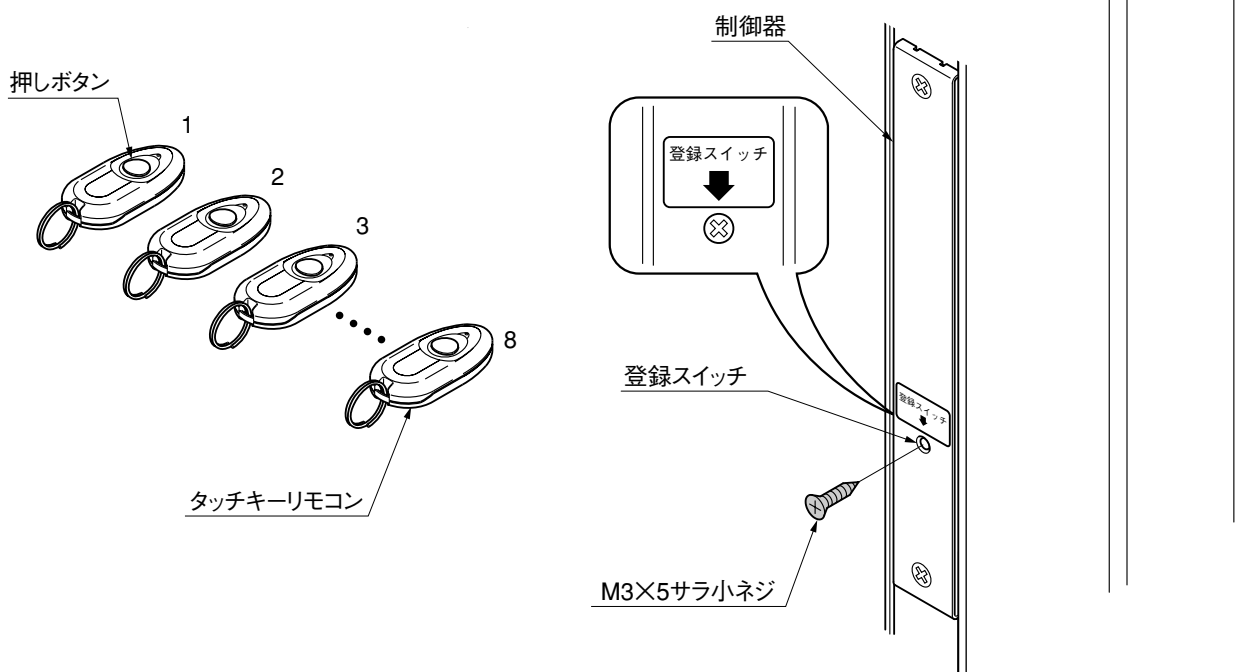
図12-2 スペーサー平面図

- ❶ 電動おでかけサムターンのネジカバー、「M3×10バインドネジ」を取外して、電動おでかけサムターンを取外してください。
- ❷ サムターン取付板を固定している「M4×10サラ小ネジ」を取外して、下シリンダーを取外してください。(図12-1参照)
- ❸ サブ箱錠を固定している「M4×10サラ小ネジ」を取外して、防犯アラームと表示しているコネクタを引き出してください。(図12-1参照)
- ❹ 防犯アラームシリンダーと合掌框のあいだにスペーサーをはさみ、防犯アラームシリンダーのコネクタを接続してください。
- ❺ 取外した逆の手順でサブ箱錠、電動おでかけサムターンを取付けてください。

補足

- 防犯アラームシリンダーは、H12には取付きません。
- 防犯アラームシリンダー用のスペーサーには左右があります。外観右の扉に取付ける場合にはR、左に取付ける場合にはLと表示しているスペーサーを使用してください。(図12-2参照)

13. タッチキーリモコンの追加登録方法 **オプション**



ポイント

- タッチキーリモコンは、本体に2個付属しています。付属のタッチキーリモコンは登録済みです。
- タッチキーリモコンを増やしたいときには追加登録を行ってください。合計8個まで追加することができます。
- 追加登録すると、それまでの登録内容はすべて消えますので、すでに登録済みのタッチキーリモコンも同時に再登録してください。

- 1 登録するタッチキーリモコンをすべて用意してください。
- 2 扉を開けて制御器の下部にある「M3×5サラ小ネジ」を取外してください。
- 3 登録スイッチをつまようじ、ヘアピン等の先の細いものを利用してブザーが3回鳴るまで登録スイッチを押してください。
- 4 30秒以内に登録するタッチキーリモコンの押しボタンを押してください。

補足

- 登録したタッチキーリモコンの個数分ブザーが鳴ります。
- ボタンを3秒以上押しつづけると、リモコンの電源が切れます。その場合は「14-3 リモコン本体の電源操作」を参照にして電源を入れてください。

- 5 30秒後にブザーが鳴り登録終了になります。
- 6 登録を終了したら取外した「M3×5サラ小ネジ」を取付けてください。

ポイント

- 「M3×5サラ小ネジ」は必ず取付けてください。取付けないと水の侵入により故障の原因になります。

14. タッチキー&ノータッチキー門扉操作の確認

14-1 タッチキーモードでの解錠・施錠方法

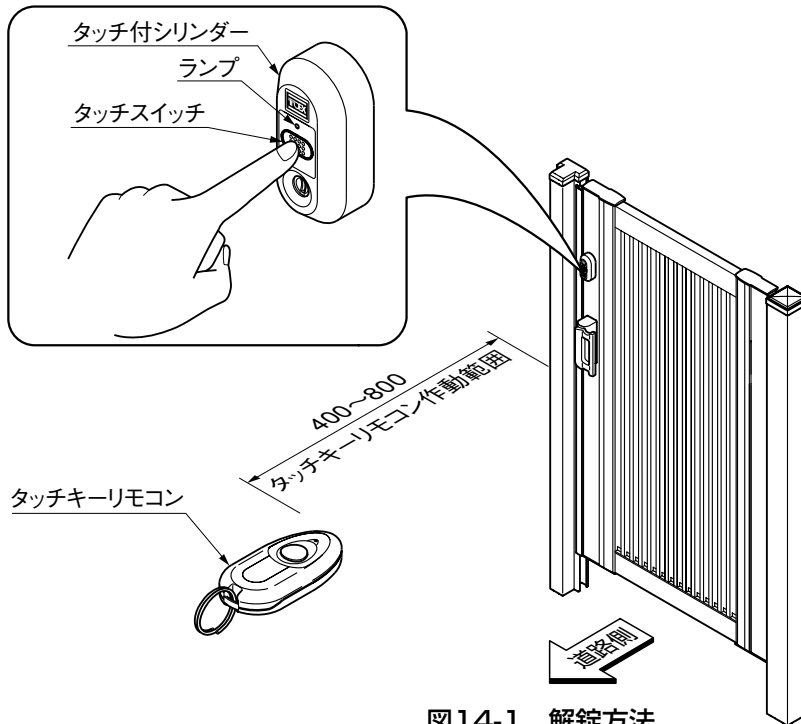


図14-1 解錠方法

ポイント

- タッチキーリモコンを使って門扉を操作する場合、タッチキーリモコンの登録が必要です。
- ① タッチキーリモコンを携帯して門扉から400mm～800mmの範囲でタッチ付シリンダーまたはタッチ付電動サムターンのタッチスイッチを押して門扉を解錠してください。

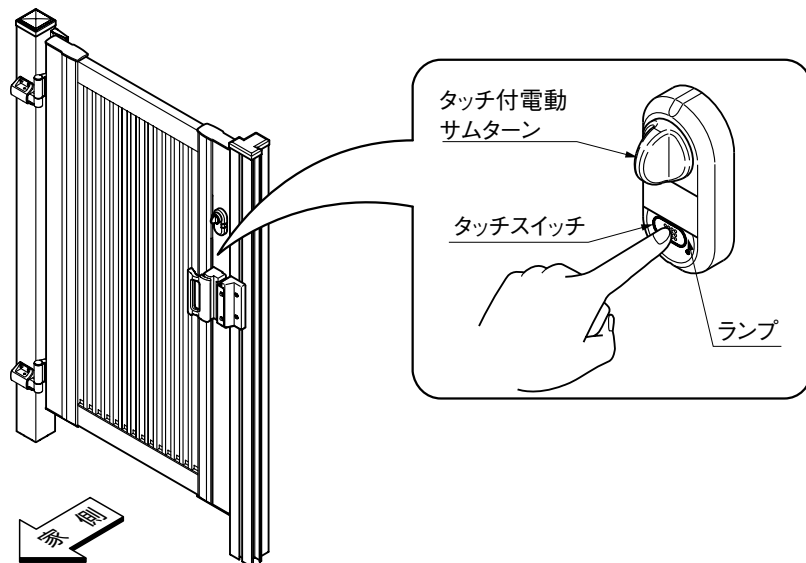


図14-2 施錠方法

- ② 扉を開いて、扉を閉めると、1秒後に門扉が自動施錠することを確認してください。

補足

- タッチスイッチにより解錠して、すぐに施錠したい場合は再度タッチスイッチを押すと施錠します。また操作をしなくても、30秒後に自動施錠します。

14-2 ノータッチキーモードでの解錠・施錠方法

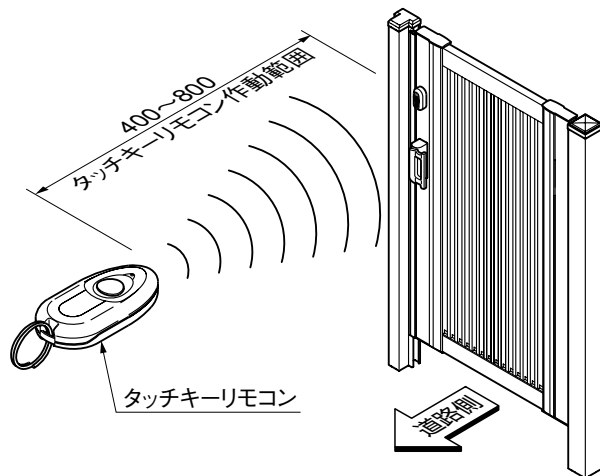


図14-3 解錠方法

ポイント

- タッチキーリモコンを使って門扉を操作する場合、タッチキーリモコンの登録が必要になります。
- ① タッチキーリモコンを携帯して門扉に400mm～800mm近付いて門扉が解錠することを確認してください。

補足

- 出荷時はタッチキーモードに設定しています。ノータッチキーモードに切替えるには「14.タッチキー／ノータッチキーモード切替確認」を参照してください。
- タッチキーリモコンを400mm以内に近づけると作動しないことがありますが故障ではありません。

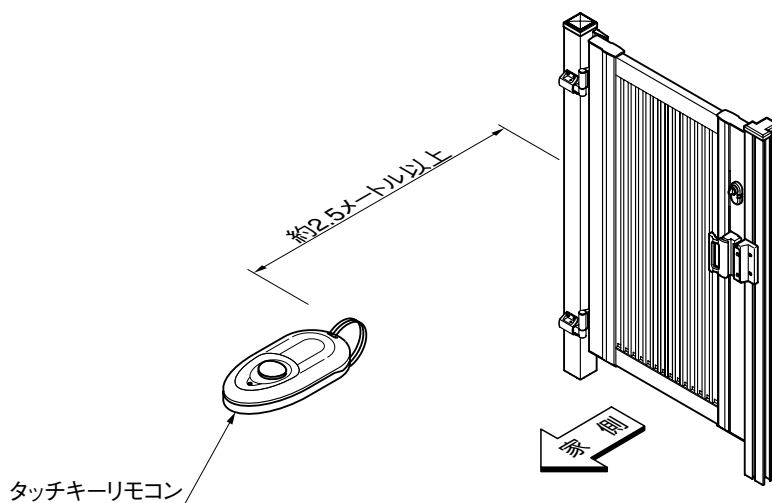


図14-4 施錠方法

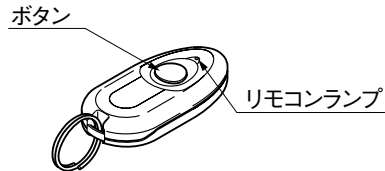
- ② 扉を開いた後、扉を閉めて扉から約2.5メートル以上離れると門扉が施錠することを確認してください。

14. つづき

14-3 リモコン本体の電源操作

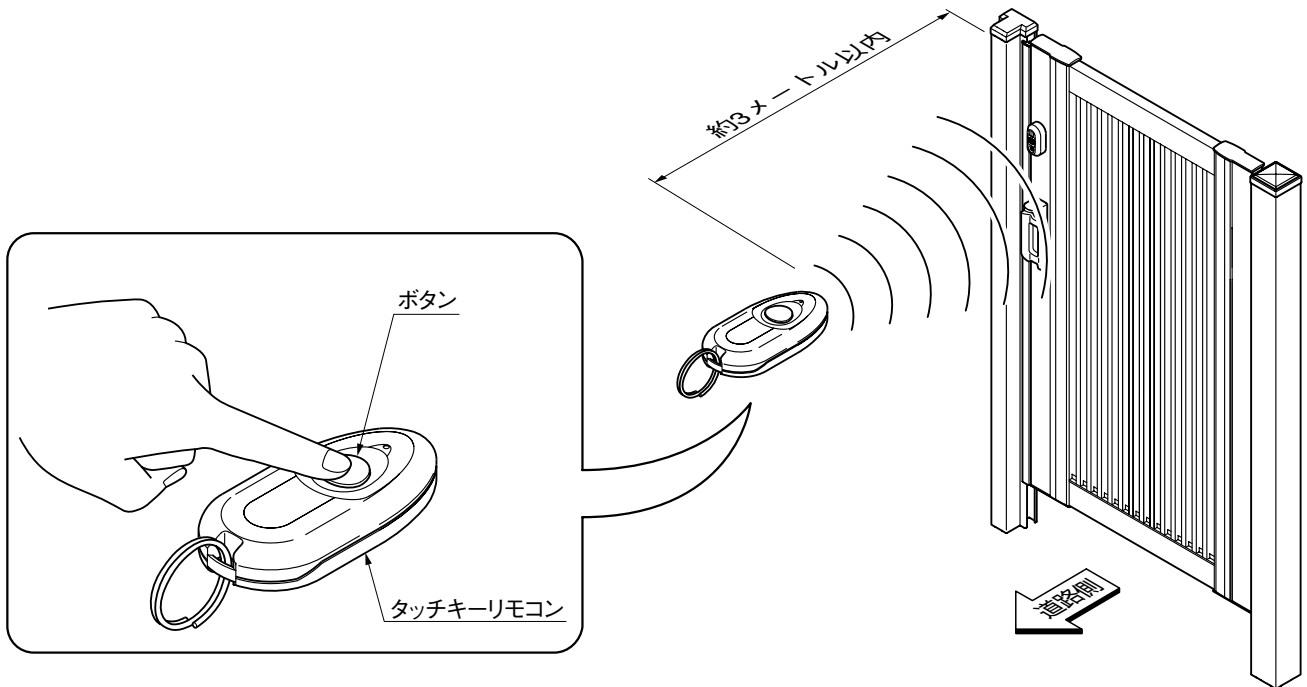
補足

- 門扉付近にタッチキーリモコンを保管する場合は、以下の方法でタッチキーリモコンの電源を切ってください。



- ① タッチキーリモコンの電源を切るには、ボタンを押すとリモコンランプが点灯する状態でボタンを約3秒間押してください。リモコンランプが消灯して電源が切れます。
- ② タッチキーリモコンの電源を入れるには、ボタンを押してもリモコンランプは点灯しませんが、そのまま約3秒間押し続けているとリモコンランプが点灯して電源が入ります。

14-4 リモコン機能での操作方法

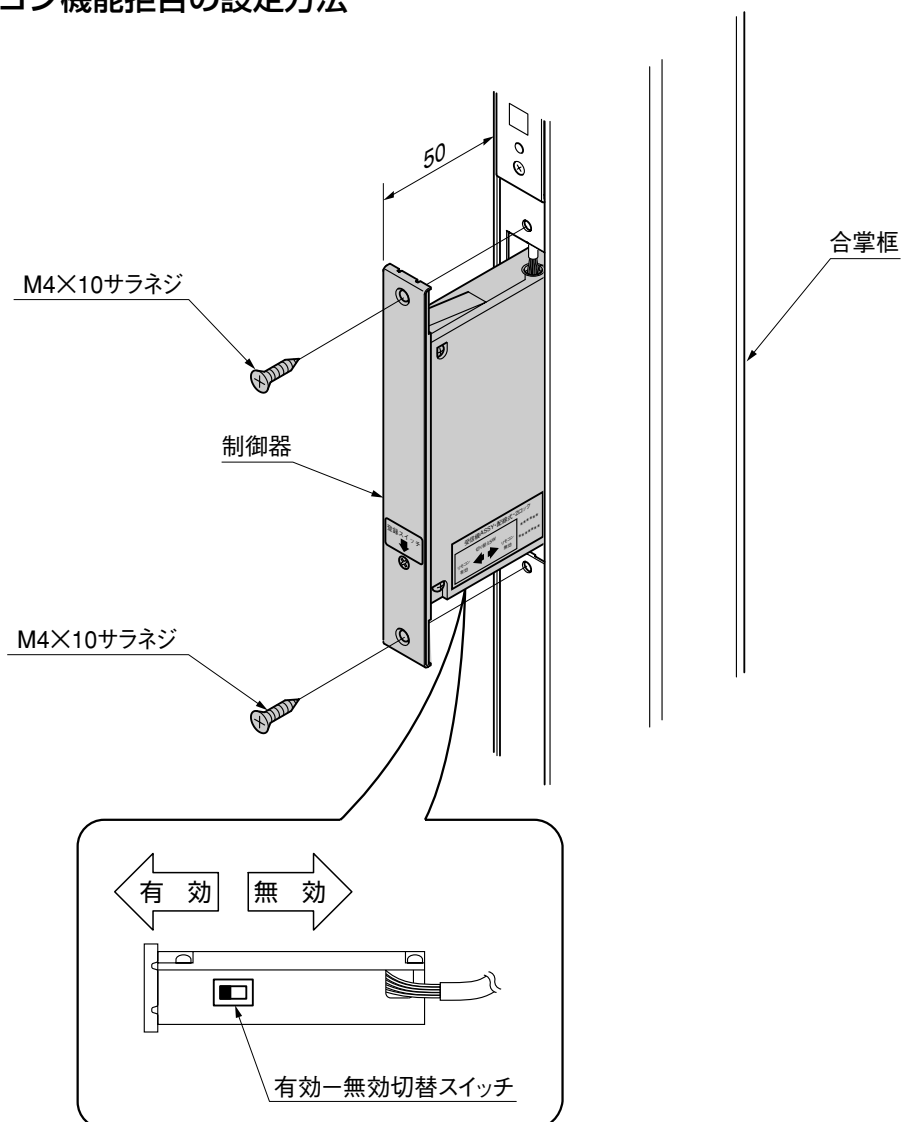


- ① 門扉から約3メートル以内の離れた場所からタッチキーリモコンのボタンを押して、門扉が施錠・解錠することを確認してください。

補足

- タッチキーリモコンのボタンを押して解錠した後にドアの開閉を行わなかった場合、約30秒後に自動施錠します。
- 扉の上または下の錠のどちらか一方が施錠している時、リモコン操作を行うと解錠します。もう一度タッチキーリモコンのボタンを押すと施錠します。
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局等の強い電波を発生する設備があるなど周囲の状況によっては作動距離が短くなったり、リモコン機能が使えなくなる場合があります。

14-5 リモコン機能拒否の設定方法



🔑 ポイント

- 玄関ドアや他門扉を共通で使用する場合、門扉と玄関ドアまたは、他門扉が近くにあるとリモコン操作ですべての扉が施解錠します。その場合は、門扉のリモコン機能を無効にしてください。

✎ 補足

- 出荷時は、リモコン機能は有効になっています。

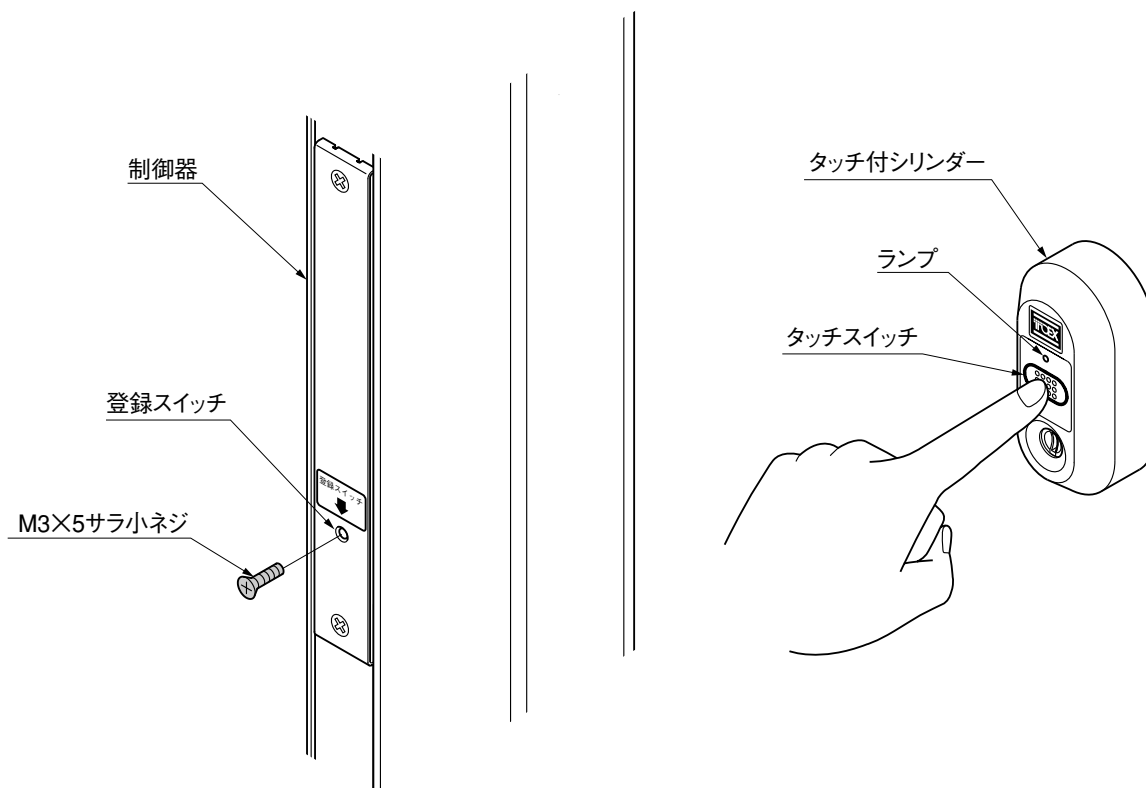
- ① 制御器を固定している「M4×10サラネジ」を外してください。
- ② 制御器を50mmほど手前に出してください。
- ③ 制御器下部の有効-無効切替スイッチを無効にしてください。
- ④ 外した手順と逆の手順で取付けてください。

🔑 ポイント

- 制御器には配線を接続していますので無理に引っ張らないでください。

15. タッチキー／ノータッチキーモード切替確認

15-1 配線式の場合



ポイント

- タッチキーモードは、タッチキーリモコンを携帯して、門扉のタッチスイッチを押すと解錠します。
- ノータッチキーモードは、タッチキーリモコンを携帯して、門扉に近付くと解錠します。

補足

- ソーラー仕様の場合は、タッチキーモードでの使用になります。ノータッチキーモードへの切替はできません。
- 出荷時はタッチキーモードに設定しています。

- ① 制御器の下部の「M3×5サラ小ネジ」を取外して、登録スイッチをつまようじやヘアピン等の先の細いもので押してブザーが3回鳴ることを確認してください。
- ② 30秒以内にタッチスイッチを押してください。
- ③ 終了したら取外した「M3×5サラ小ネジ」を取付けてください。

補足

- タッチキーモードからノータッチキーモードの切替の時には、制御器のブザーが2回鳴り切替が完了します。
- ノータッチキーモードからタッチキーモードの切替の時には、制御器のブザーが1回鳴り切替が完了します。
- タッチキー／ノータッチキーモードの切替は反転になります。

16. 電気錠の操作確認

16-1 配線式の場合

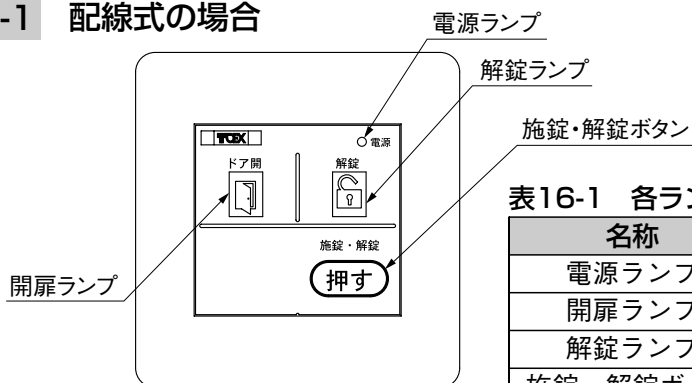


表16-1 各ランプ・ボタンのはたらき

名称	操作・表示
電源ランプ	電源が入ってる時に点灯します。
開扉ランプ	扉が開いてる時に点灯します。
解錠ランプ	扉が解錠している時に点灯します。
施錠・解錠ボタン	扉を施錠・解錠する時に押してください。

補足

- 室内メインコントローラーを使用することで、室内から門扉電気錠の施錠・解錠を行うことができます。
- 開扉ランプが点灯している場合は、施錠・解錠の操作はできません。

① 室内メインコントローラーの施錠・解錠ボタンを押してください。

補足

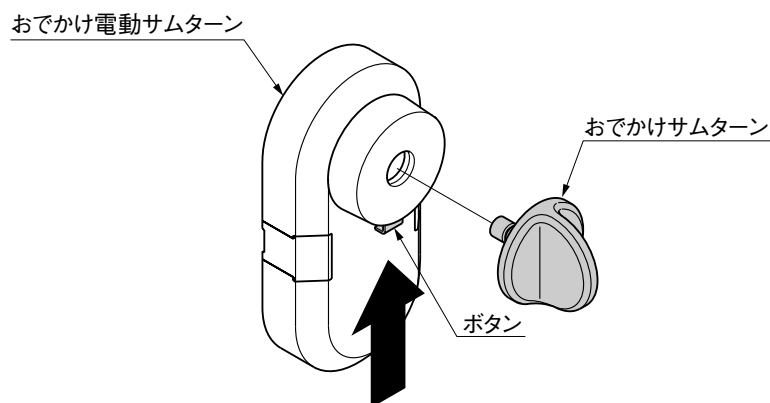
- 門扉を解錠した後、門扉の開閉を行わなかった場合は、約30秒後に、自動施錠します。
- 門扉の上の錠または下の錠のどちらか片方しか施錠していない場合は、解錠を行います。
- オプション設定の増設スイッチも室内インコントローラーと同じ操作・表示をします。
- 施錠・解錠ボタンを押した直後にもう一度施錠・解錠ボタンを押しても作動しません。

16-2 2線配線式の場合

補足

- 電気錠操作ユニットに付属の取扱説明書を参照してください。

17. おでかけサムターンの取付け・取外しの確認



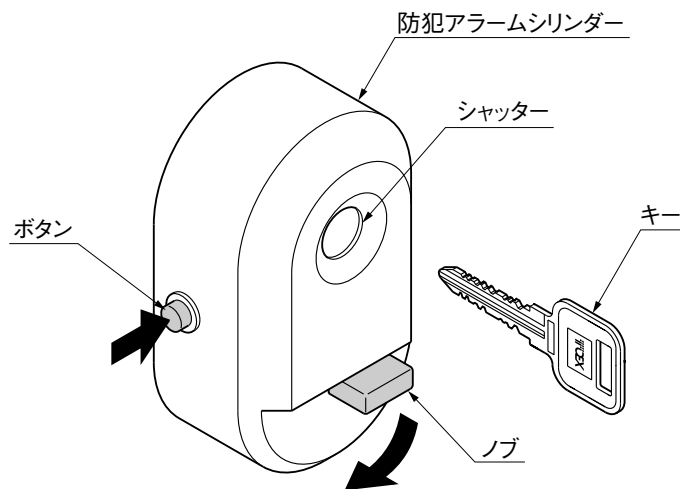
- ① おでかけサムターンを取外す時は、ボタンを押しながらおでかけサムターンを引張ってください。
- ② おでかけサムターンを取付ける時は、ボタンを押しながらおでかけサムターンを差込んでください。

補足

- 施錠・解錠を家側から手動で行う場合は、おでかけサムターンにより操作可能です。
- おでかけサムターンにより解錠した場合は、自動施錠は行いません。

18. 防犯アラームシリンダーの使用法 **オプション**

18-1 シリンダーの使用法

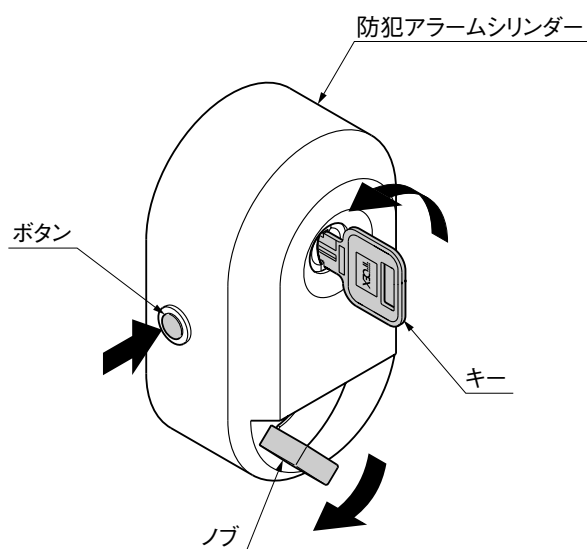


- ❶ 防犯アラームシリンダー側面にあるボタンを押してください。
- ❷ ボタンを押しながらノブを押し下げてください。
- ❸ ノブを押さえたまま、キーを挿入して、施錠してください。

補足

- ノブを押し下げたまま30秒解錠しないでいると、ブザーが鳴り出します。
- 防犯アラームシリンダーはH12サイズには取付けができません。
- 防犯アラームシリンダーのキーは、メインキーとは異なります。

18-2 ブザー解除方法



- ❶ 防犯アラームシリンダーをキーで解錠してください。
- ❷ タッチ付シリンダーを解錠してください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

